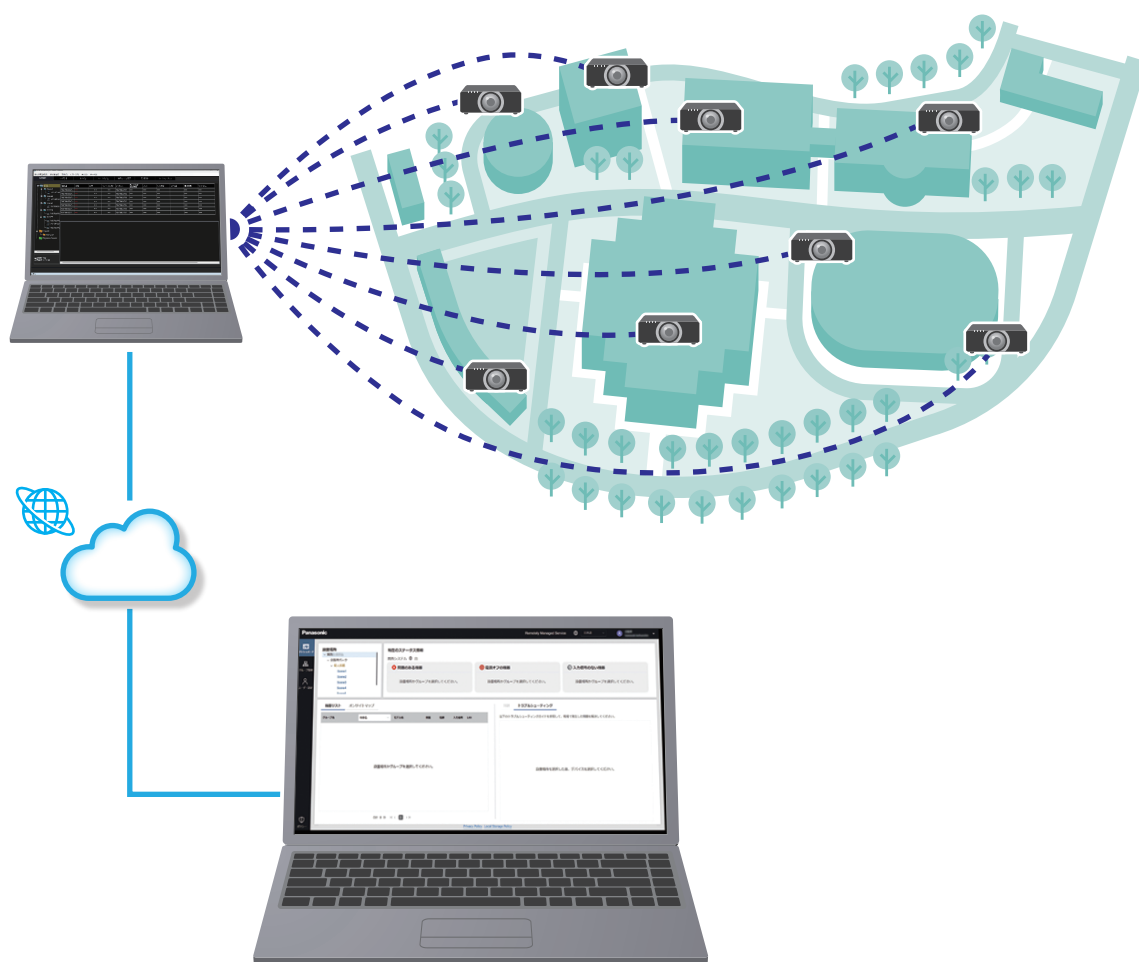


取扱説明書 リモートマネージドサービス 監視サービス

監視Basic



このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■ 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

もくじ

はじめに.....	3
ご使用にあたってのお願いとお知らせ	3
セキュリティーに関するお願い	3
本書の内容について	3
監視サービスについて	4
システム構成.....	5
システム要件.....	6
アカウント登録.....	7
アカウント登録手順	7
監視端末の初期設定	8
初期設定一覧.....	8
BIOS 設定	9
Windows ポリシーの設定	10
Windows Service の設定.....	12
Windows の電源設定.....	14
Windows サインインの設定	16
レジストリエディターでの操作	18
.NET Framework のインストール.....	19
IIS の有効化	20
アプリケーションソフトのダウンロードとインストール	21
クラウド設定ファイルのダウンロードとインポート	23
ネットワーク設定.....	25
IT 系 LAN のネットワーク設定.....	26
AV 系 LAN のネットワーク設定.....	27
接続の確認.....	28
プロジェクターの登録	29
オンサイトマップ表示設定.....	31
運用	34
リモートマネージドサービスへのアクセス方法.....	34
ポータルサイトの画面操作.....	35
[ダッシュボード] 画面.....	36
[グループ管理] 画面.....	37
[ユーザー設定] 画面.....	38
[ダウンロード] 画面.....	40
通知先の設定.....	45
ユーザーアカウントの登録.....	46
パスワードのリセット	48
個人情報保護方針について.....	49
[ポリシー] 画面.....	49
商標について.....	50

はじめに

ご使用にあたってのお願いとお知らせ

セキュリティに関するお願い

本サービスをご利用になる場合、次のような被害に遭うことが想定されます。

- 本サービスを経由したお客様のプライバシー情報の漏えい
- 悪意のある第三者による本サービスの不正操作
- 悪意のある第三者による本サービスの妨害や停止

セキュリティ対策を十分に行ってください。

- パスワードはできるだけ推測されにくいものにしてください。
- パスワードは定期的に変更してください。
- パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社およびその関係会社が、お客様に対して直接パスワードを照会することはありません。直接問い合わせがあっても、パスワードを答えないでください。
- Windows Updateを定期的に行い、コンピューターを最新の状態に保ってください。なお、連続して稼働させる必要がある監視端末については、突然再起動しないように、Windows Updateの自動更新を無効にしてください。(☞ 10 ページ)
- ファイアウォールなどの設定により、安全性が確保されたネットワークでご使用ください。
- ご使用のコンピューターのパスワードを設定し、ログインできるユーザーを制限してください。なお、監視端末の再起動時に自動的にWindowsにサインインさせたい場合は、Windowsのログインパスワードを削除してください。(☞ 16 ページ)
- コンピューターの設定やネットワーク環境について、詳しくはネットワーク管理者にご相談ください。

本書の内容について

- 本サービスの機能は、予告なく追加または変更される可能性があります。
本書内のイラストや画面は、実際と異なる場合があります。
本書に記載のない表示項目がある場合は、画面に表示される内容に従って操作および設定を行ってください。
- 参照ページについて
本書では、参照ページを(☞ 00 ページ)のように示しています。

監視サービスについて

監視サービスとは、現場に設置された 1 台または複数台のプロジェクターの状態を、インターネットおよびクラウドサービスを介して、遠隔地から確認できるようにするサービスです。

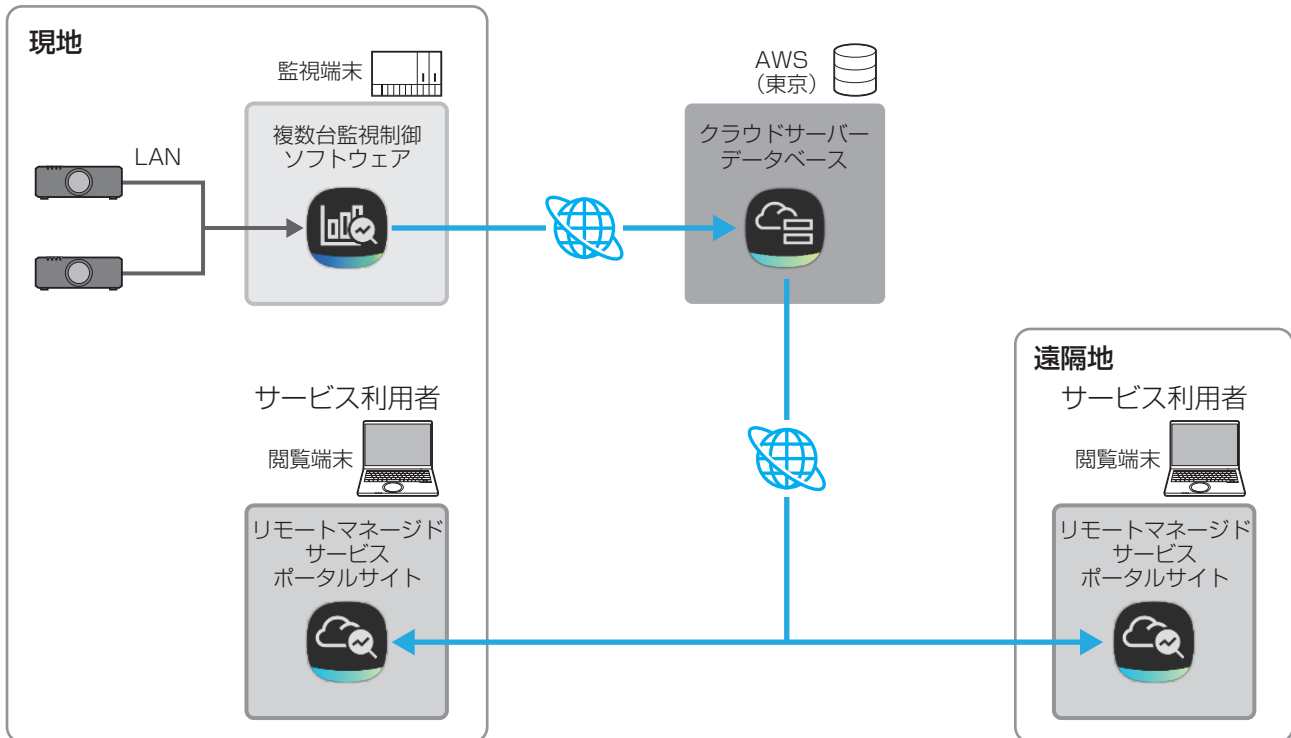
また、監視するプロジェクターの設置場所は 1 か所だけではなく、複数の設置場所ごとにプロジェクターの運用状態を確認することもできます。プロジェクターにエラーや警告が発生すると、その詳細内容と対処方法を手元の端末で確認できます。通知先のメールアドレスを登録しておくことで、エラーや警告発生時に自動的にメール通知が行われるようにすることも可能です。

プロジェクターの設置場所の平面図や写真をオンサイトマップとして取り込み、各プロジェクターの設置位置をマップ上に配置することで、エラーや警告が発生しているプロジェクターを特定しやすくし、インシデント管理が容易になります。

監視サービスには、本書で説明する「監視 Basic」（無償）と、管理代行やサービス利用管理者向けの「監視 Pro」（有償）があります。「監視 Basic」の場合、警告情報は表示されません。

システム構成

プロジェクターの設置現場の近くにデータ収集用の監視端末を設置し、監視端末で収集したデータをクラウドサーバーデータベースに集約します。閲覧端末は、インターネットおよびクラウドサービスを介してクラウドサーバーデータベースに接続することで、収集したデータを閲覧できます。



アイコン	名称	説明
	複数台監視制御ソフトウェア	イントラネットに接続された複数台のプロジェクターを監視・制御するアプリケーションソフトです。リモートマネージドサービスでは、プロジェクターからデータを収集してクラウドサーバーデータベースに送信する役割を担います。
	クラウドサーバーデータベース	リモートマネージドサービスの各種サービス基盤です。
	リモートマネージドサービスポータルサイト	クラウドサーバーデータベースに保存されたプロジェクターのデータを、Webブラウザで閲覧するためのユーザーインターフェースです。

システム要件

■ 監視端末

プロジェクターの設置現場の近くに設置してデータを収集する監視端末として、次の条件を満たすコンピューターが必要です。

コンピューター *1	産業用やサインージ用など、24 時間 365 日連続稼働ができるコンピューターを推奨。
OS	<ul style="list-style-type: none"> ● Windows 11 IoT Enterprise ● Windows 11 Pro 上記OSの日本語版、英語版に対応しています。 24 時間 365 日連続稼働での運用を行う場合はWindows 11 IoT Enterprise LTSCを推奨します。
CPU	Intel® Core™ i5 相当
メモリー	8 GB以上
ストレージ	128 GB以上のSSD
LAN	CAT5 (100Base-TX)
ポート	以下のポートの開放が必要です。 80 : HTTP (TCP) 以下のポートも利用します。 443 : HTTPS (TCP) 1024 : コマンドコントロール (TCP/UDP) 4352 : PJLink (TCP)

*1 無停電電源装置の導入を推奨します。

■ 閲覧端末

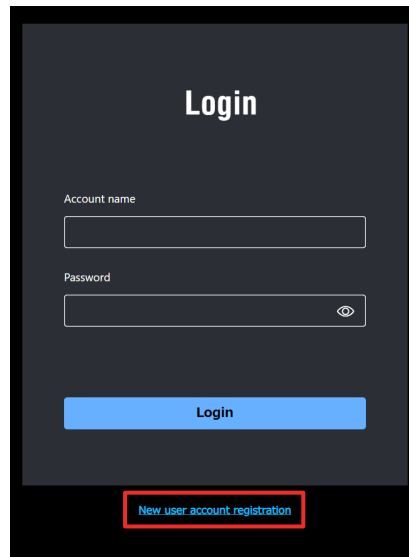
クラウドサーバーデータベースに集約されたプロジェクターのデータを閲覧するためには、Microsoft EdgeなどのWebブラウザが動作するコンピューターまたはスマートフォンが必要です。

アカウント登録

アカウント登録手順

監視サービスを利用するユーザーのアカウントを登録します。

- 1 Web ブラウザーを起動し、次の URL の Web ページを開く。
https://pp.rmpf.panasonic.com
- 2 ログイン画面の [New user account registration] をクリックする。



- 3 遷移先の画面指示に従ってアカウント情報を入力し、登録を完了する。

お知らせ

- 「初期設定一覧」(👁️ 8 ページ) の一部の設定項目は、登録したアカウントを使用してリモートマネージドサービスにログインする必要があります。

監視端末の初期設定

初期設定一覧

プロジェクターを監視するために、監視端末で次の設定および操作を行います。
24 時間 365 日連続稼働でプロジェクターを監視する場合は、次の表の「本格運用の場合」欄を確認してください。

設定項目	設定・操作の概要	実施レベル ✓：必須（空白）：任意		参照先
		本格運用の場合	試用運用の場合	
BIOS 設定	電源が投入された際に監視端末が自動的に起動するように設定します。	✓		9 ページ
Windows ポリシーの設定	Windows Update の自動更新を無効にします。			10 ページ
Windows Service の設定	スタートアップ時の Windows Update サービスの開始を無効にします。			12 ページ
Windows の電源設定	意図しない操作でシャットダウンしたりスリープ状態に移行したりしないように設定します。	✓		14 ページ
Windows サインインの設定	監視端末が起動した際に自動的に Windows にサインインできるように、Windows のログインパスワードを削除します。			16 ページ
.NET Framework のインストール	.NET Framework (4.8 以降) をインストールします。	✓	✓	19 ページ
IIS の有効化	IIS (Internet Information Services) を有効にします。	✓	✓	20 ページ
アプリケーションソフトのダウンロードとインストール	複数台監視制御ソフトウェアのインストールと、クラウド設定ファイルのインポートを行います。	✓ ^{*1}	✓ ^{*1}	21 ページ
クラウド設定のダウンロードとインポート	クラウド設定ファイルのインポートを行います。	✓ ^{*2}	✓ ^{*2}	23 ページ
ネットワーク設定	監視端末をインターネットに接続します。	✓ ^{*3}	✓ ^{*3}	25 ページ
接続の確認	クラウドサーバーへの接続状態を確認します。	✓	✓	28 ページ
プロジェクターの登録	監視対象のプロジェクターを登録します。	✓	✓	29 ページ
オンサイトマップ表示設定	監視サービスで閲覧するオンサイトマップにプロジェクターのステータスアイコンを配置します。			31 ページ

*1 監視端末に、監視サービスに対応した複数台監視制御ソフトウェア (Ver4.2.0 以降) がすでにインストールされている場合、「アプリケーションソフトのダウンロードとインストール」の操作を行う必要はありません。「クラウド設定のダウンロードとインポート」の操作を行ってください。

*2 「アプリケーションソフトのダウンロードとインストール」の操作を行った場合、「クラウド設定のダウンロードとインポート」の操作を行う必要はありません。

*3 「アプリケーションソフトのダウンロードとインストール」または「クラウド設定のダウンロードとインポート」の操作を行った場合、「ネットワーク設定」の設定を行う必要はありません。

BIOS 設定

監視端末を電源が入った状態で維持するために、電源が再投入された際に監視端末が自動的に起動するように BIOS の設定を行います。

お知らせ

- 次の操作手順は、あるコンピューターの事例です。BIOS の起動方法や設定画面は、使用するコンピューターによって異なります。使用するコンピューターの取扱説明書をご確認のうえ、同様の設定を行ってください。

- 1** コンピューターの電源を入れ、起動中にキーボードの F2 キーを押す。
BIOS 設定画面が表示されます。
- 2** [Power] – [Secondary Power Settings] にある [After Power Failure] を [Power ON] に変更する。
- 3** [Save and Exit] を選択して Enter キーを押す。
設定内容が保存され、コンピューターが再起動します。

Windows ポリシーの設定

監視端末を再起動せずに連続稼働させるために、Windows Updateの自動更新を無効にします。

お知らせ

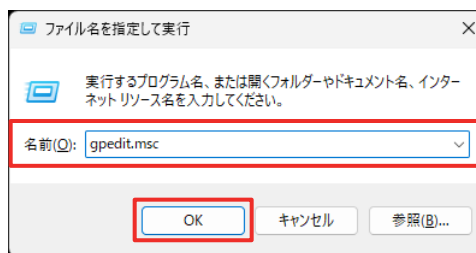
- コンピューターのOSがWindows 11 IoTの場合は、この設定は不要です。ただし、Windows 11 Proの場合は、設定することを推奨します。

1 Windows Updateを実行してコンピューターを最新の状態にする。

画面の指示に従い、必要に応じてコンピューターを再起動してください。

2 WindowsキーとRキーを同時に押して【ファイル名を指定して実行】ダイアログボックスを表示する。

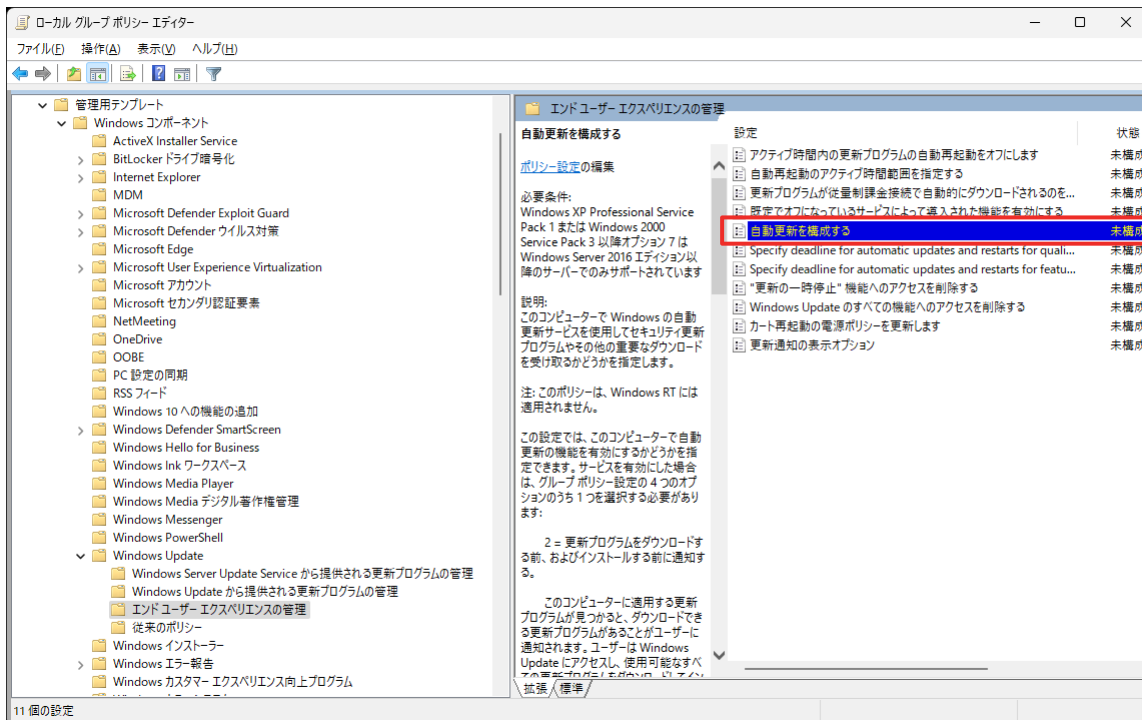
3 【名前】に【gpedit.msc】と入力してから【OK】をクリックする。



【ローカルグループポリシーエディター】画面が表示されます。

4 左側にツリー表示されている項目を【コンピューターの構成】、【管理用テンプレート】、【Windows コンポーネント】、【Windows Update】、【エンドユーザーエクスペリエンスの管理】の順にクリックする。

5 【自動更新を構成する】をダブルクリックする。



6 [無効] を選択して [適用] をクリックする。

自動更新を構成する

自動更新を構成する

前の設定 (P) 次の設定 (N)

未構成 (C) コメント:

有効 (E)

無効 (D)

サポートされるバージョン: Windows XP Professional Service Pack 1 または Windows 2000 Service Pack 3 以降
オプションは Windows Server 2016、エディション以降のサーバーでのみサポートされて

オプション: ヘルプ:

自動更新の構成:

以下の設定が必要なのは (適用されるのは)、4 を選択し
ず。

自動メンテナンス時にインストールする

インストールを実行する日: []

インストールを実行する時間: []

スケジュールされているインストール日に対して [4 - 自動ダ
ownload日時を指定] を選択してスケジュールを指定した場合
ションを使用して更新を毎週、隔週、または毎月行うよう
す。

毎週

このコンピューターで Windows の自動更新サービスを使用してセキュリティ
更新プログラムやその他の重要なダウンロードを受け取るかどうかを指定しま
す。

注: このポリシーは、Windows RT には適用されません。

この設定では、このコンピューターで自動更新の機能を有効にするかどう
かを指定できます。サービスを有効にした場合は、グループ ポリシー設定の 4
つのオプションのうち 1 つを選択する必要があります:

2 = 更新プログラムをダウンロードする前、およびインストールする前に
通知する。

このコンピューターに適用する更新プログラムが見つかったと、ダウンロード
できる更新プログラムがあることがユーザーに通知されます。ユーザーは
Windows Update にアクセスし、使用可能なすべての更新プログラムをダ
ウンロードしてインストールできます。

3 = (既定の設定) 更新プログラムを自動的にダウンロードし、インス
トールの準備ができれば通知する。

OK キャンセル 適用 (A)

Windows Service の設定

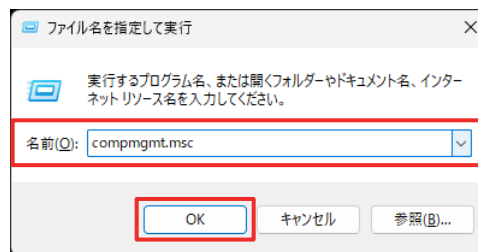
監視端末を再起動せずに連続稼働させるために、スタートアップ時の Windows Update サービスの開始を無効にします。

お知らせ

- コンピューターの OS が Windows 11 IoT の場合は、この設定は不要です。ただし、Windows 11 Pro の場合は、設定することを推奨します。
- 次の操作手順は、あるコンピューターの事例です。設定画面は、使用するコンピューターによって異なります。

1 Windows キーと R キーを同時に押して [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスを表示する。

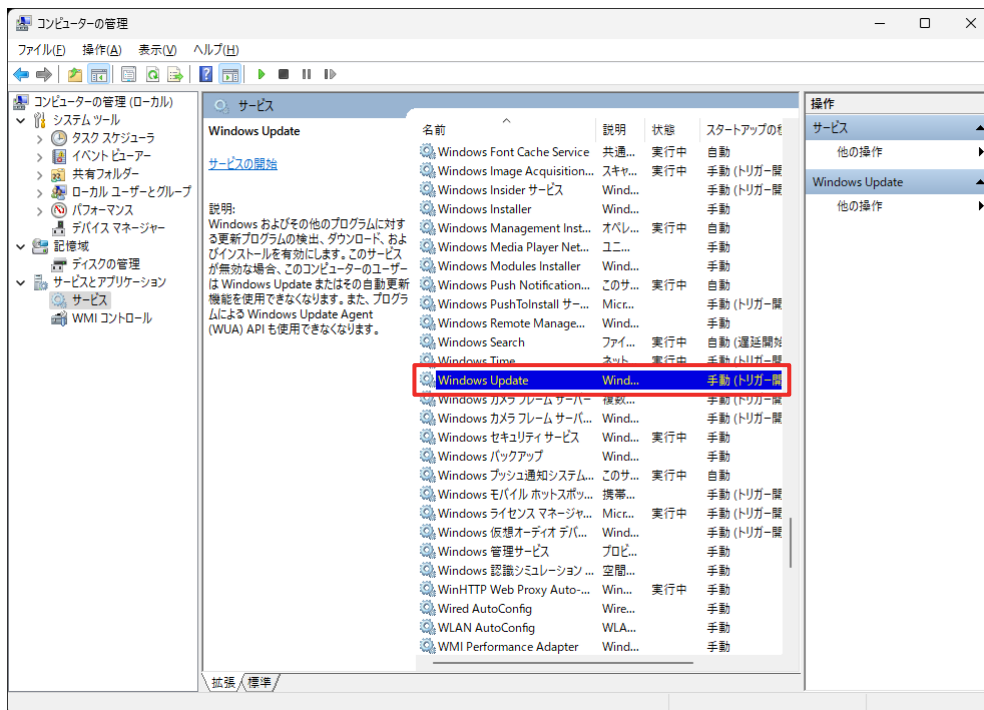
2 [名前] に [compmgmt.msc] と入力してから [OK] をクリックする。



[コンピューターの管理] 画面が表示されます。

3 左側にツリー表示されている項目を [コンピューターの管理 (ローカル)]、[サービスとアプリケーション]、[サービス] の順にクリックする。

4 [Windows Update] をダブルクリックする。

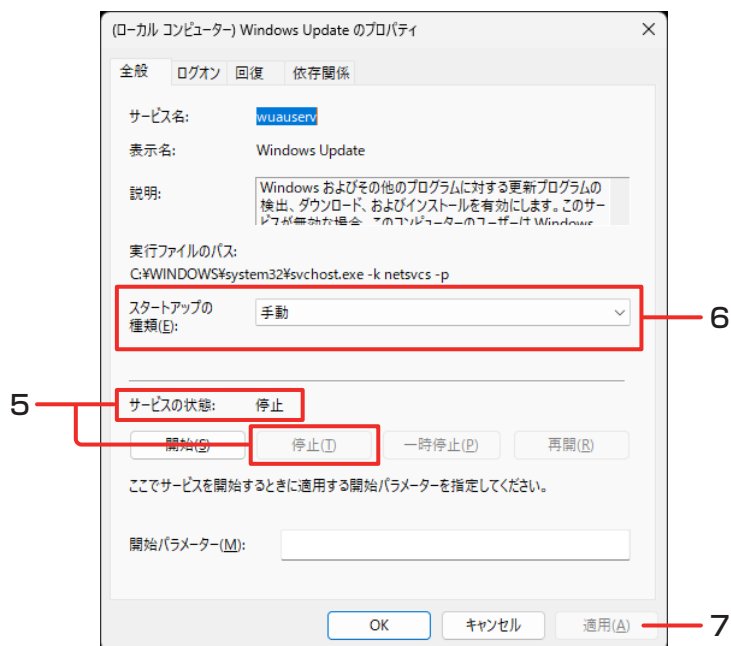


[(ローカルコンピューター) Windows Update のプロパティ] 画面が表示されます。

5 [サービスの状態]を確認し、[開始]と表示されている場合は[停止]をクリックしてサービスを停止する。

6 [スタートアップの種類]を[無効]に変更する。

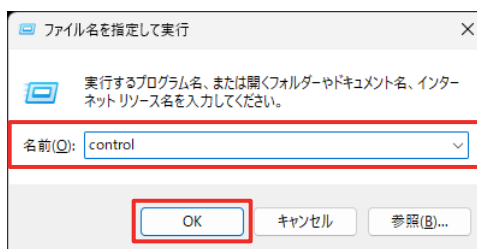
7 [適用]をクリックする。



Windows の電源設定

監視サービスを運用中に、意図しない操作で監視端末がシャットダウンしたりスリープ状態に移行したりしないように、Windows の電源設定を変更します。

- 1 Windows キーと R キーを同時に押して [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスを表示する。
- 2 [名前] に [control] と入力してから [OK] をクリックする。



[コントロール パネル] 画面が表示されます。

- 3 [ハードウェアとサウンド]、[電源オプション] をクリックする。
[電源オプション] 画面が表示されます。

- 4 [バランス] または [省電力] の [プラン設定の変更] をクリックする。



[プラン設定の編集] 画面が表示されます。

- 5 [ディスプレイの電源を切る] と [コンピューターをスリープ状態にする] について、[適用しない] を選択し、[変更の保存] をクリックする。



[電源オプション] 画面に戻ります。

- 6 左メニューの [電源ボタンの動作を選択する] をクリックする。

[システム設定] 画面が表示されます。

- 7 [電源ボタンを押したときの動作] と [スリープボタンを押したときの動作] について、[何もしない] を選択し、[変更の保存] をクリックする。

[電源ボタンを押したときの動作] がグレー表示されて変更できないときは、[現在利用可能ではない設定を変更します] をクリックしてください。

[スリープボタンを押したときの動作] がグレー表示されて変更できないときは、[現在利用可能ではない設定を変更します] をクリックしてください。



お知らせ

- ご使用のコンピューターの機種によって、設定できる項目が異なります。

Windows サインインの設定

監視端末の電源が再投入された場合、通常はWindowsのサインイン画面が表示され、入力待ちの状態になります。そのため、サインインが完了するまで複数台監視制御ソフトウェアは起動しません。このため、Windowsのログインパスワードを削除し、監視端末が再起動後に自動的にWindowsにサインインできるように設定します。

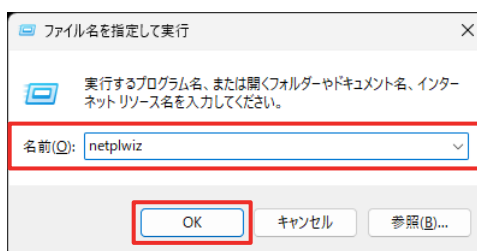
お願い

- ログインパスワードを削除すると、第三者が監視端末を操作できるようになるため、サーバー室への入室制限や使用者の制限など、セキュリティに配慮してください。

お知らせ

- 監視端末が再起動した際に手動でサインインを行う運用をする場合、この設定を行う必要はありません。

- 1 スタートボタンをクリックし、[設定] をクリックする。
- 2 [アカウント]、[サインインオプション] の順にクリックする。
- 3 [パスワード] をクリックしてから [変更] をクリックし、パスワードを空欄にして [OK] をクリックする。
パスワードを空欄に設定できない場合は、手順 4 から手順 8 を行ってください。
- 4 Windows キーと R キーを同時に押して [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスを表示する。
- 5 [名前] に [netplwiz] と入力してから [OK] をクリックする。

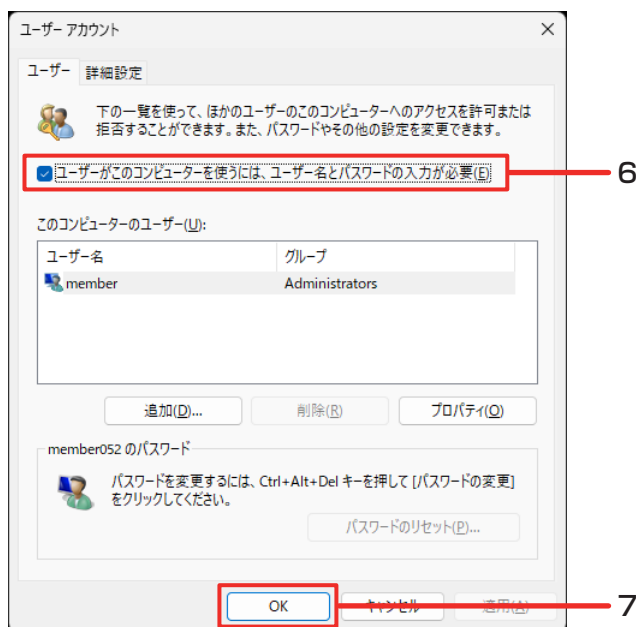


[ユーザーアカウント] 画面が表示されます。

6 運用時に使用するユーザー名を選択してから [ユーザーがこのコンピューターを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要] チェックボックスのチェックを外す。

[ユーザーアカウント] 画面に [ユーザーがこのコンピューターを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要] が表示されていない場合は、「レジストリエディターでの操作」(☞ 18 ページ) を行い、再度手順 4 から行ってください。

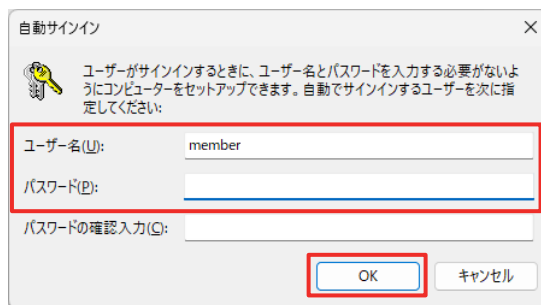
7 [OK] をクリックする。



[自動サインイン] ダイアログボックスが表示されます。

8 ユーザー名を入力し、[パスワード] は空欄のままにして [OK] をクリックする。

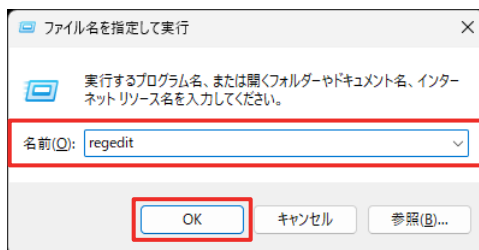
レジストリエディターでの操作を行うことができない場合や、操作を行っても [ユーザーアカウント] 画面に [ユーザーがこのコンピューターを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要] が表示されない場合、その監視端末は電源が再投入された場合に手動で Windows にサインインする必要があります。



レジストリエディターでの操作

[ユーザーアカウント] 画面に [ユーザーがこのコンピューターを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要] が表示されていないときは、次の操作でレジストリエディターを開いて操作します。

- 1 Windows キーと R キーを同時に押して [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスを表示する。
- 2 [名前] に [regedit] と入力してから [OK] をクリックする。

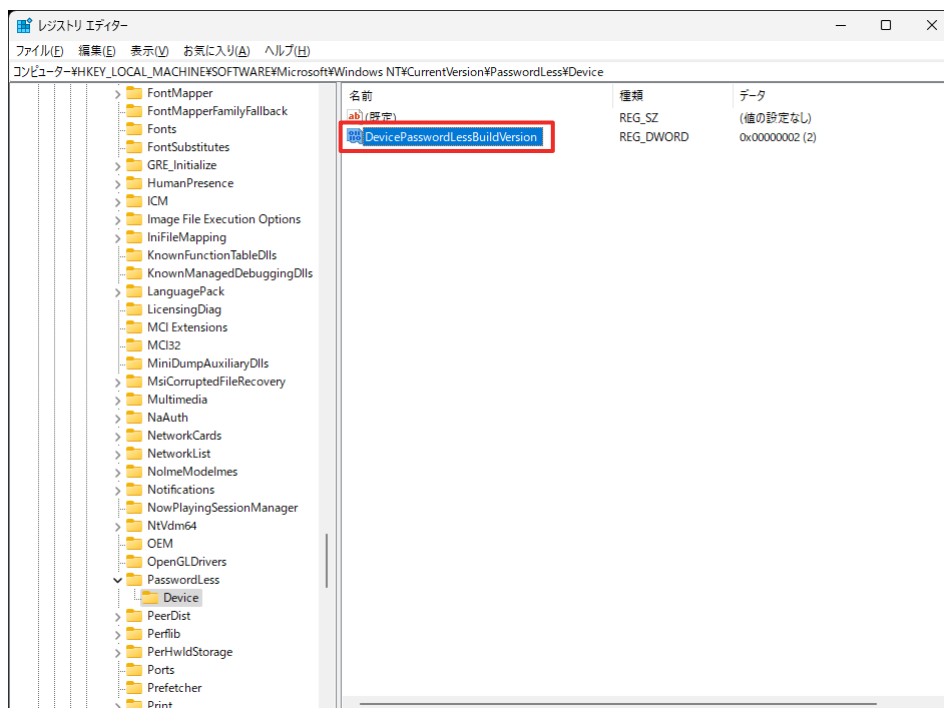


- 3 [ユーザーアカウント制御] 画面が表示されたら、[はい] をクリックする。
[レジストリ エディター] 画面が表示されます。

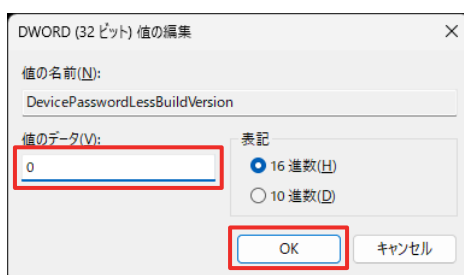
- 4 左側のツリー表示部の次のフォルダーをクリックする。

コンピューター ¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT¥Current Version¥PasswordLess¥Device

- 5 [DevicePasswordLessBuildVersion] をダブルクリックする。



- 6 [値のデータ] を [0] に変更して [OK] をクリックする。



.NET Framework のインストール

監視サービスを利用するためには、監視端末に .NET Framework 4.8 以降がインストールされている必要があります。監視端末の OS が Windows 11 IoT の場合は、.NET Framework 4.8 以降を必ずインストールしてください。

.NET Framework は次の Web サイトで入手できます。インストーラーをダウンロードして、監視端末にインストールしてください。

<https://dotnet.microsoft.com/ja-jp/download/dotnet-framework/net48>

通常は [.NET Framework 4.8 ランタイムのダウンロード] をクリックし、オンラインインストーラーをダウンロードしてください。

オンラインインストーラーのインストールがうまくいかないときは、オフラインインストーラーをダウンロードしてインストールしてください。



Microsoft | .NET .NET が選ばれる理由 機能 学習する ドキュメント ダウンロード コミュニティ [ライブレロ](#) すべての Microsoft 製品 検索

ホーム / ダウンロード / .NET Framework / 4.8

.NET Framework 4.8 のダウンロード

お探しの情報ではありませんか? その他のオプションについては、[ダウンロード](#) ページをご覧ください。

ランタイム

アプリを実行したいですか? ランタイムには、.NET Framework でビルドされた既存のアプリやプログラムを実行するために必要なすべてが備わっています。

[.NET Framework 4.8 ランタイムのダウンロード →](#)

開発者パック

アプリをビルドしませんか? 開発者パックは、ソフトウェア開発者が Visual Studio を使用して、.NET Framework 上で実行するアプリケーションを作成するために使用されます。

[.NET Framework 4.8 開発者パックのダウンロード →](#)

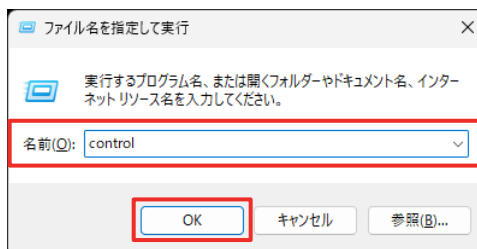
詳細ダウンロード

ダウンロードの種類	アプリのビルド・開発者パック	アプリの実行・ランタイム
Web インストーラー	該当なし	ランタイム
オフライン インストーラー	開発者パック	ランタイム

IIS の有効化

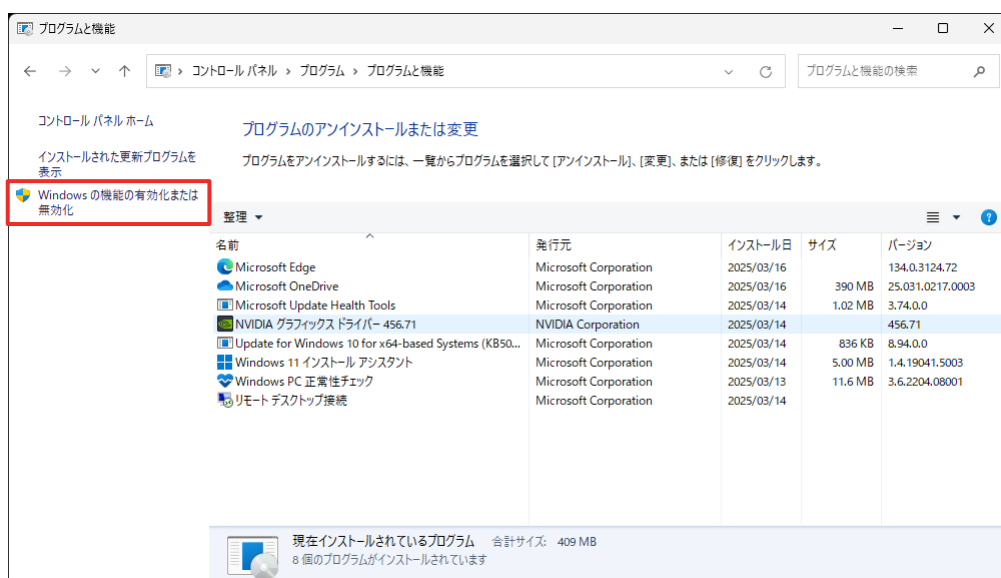
監視端末で IIS (Internet Information Services) を有効にします。

- 1 Windows キーと R キーを同時に押して [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスを表示する。
- 2 [名前] に [control] と入力して [OK] をクリックする。



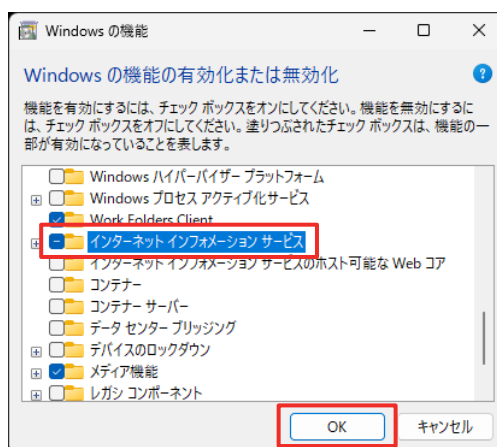
[コントロール パネル] 画面が表示されます。

- 3 [プログラム]、[プログラムと機能]、[Windows の機能の有効化または無効化] の順にクリックする。



[Windows の機能] 画面が表示されます。

- 4 [インターネットインフォメーションサービス] をクリックし、チェックボックスにチェックを入れて [OK] をクリックする。



アプリケーションソフトのダウンロードとインストール

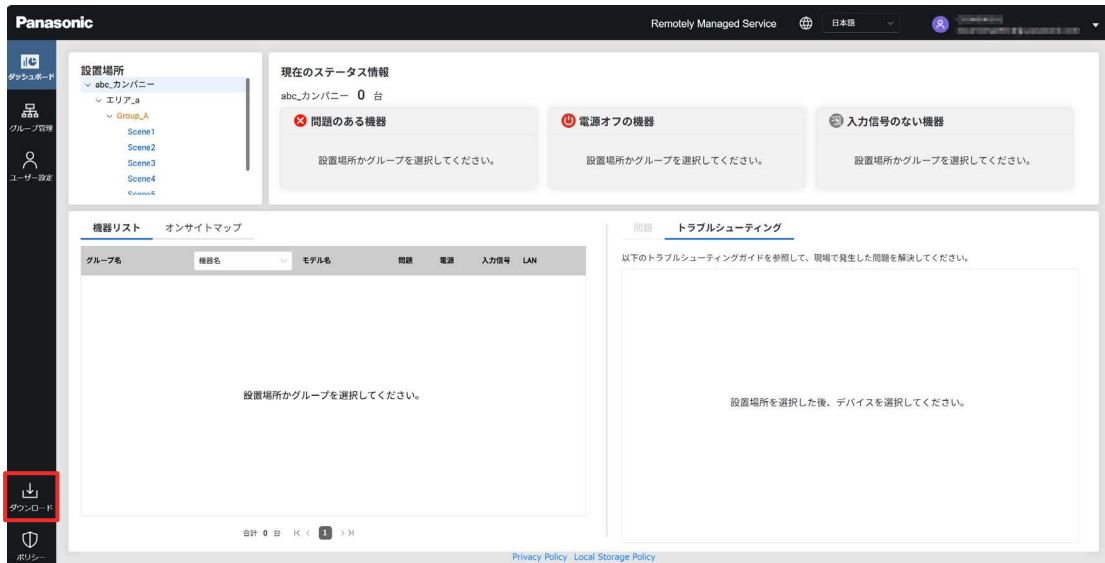
プロジェクターのデータを収集して、その情報をクラウドサーバーデータベースに登録するためには、監視サービスに対応した複数台監視制御ソフトウェア (Ver4.2.0 以降) を監視端末にインストールしておく必要があります。

1 Web ブラウザーを起動し、次の URL にアクセスしてリモートマネージドサービスにログインする。

https://pp.rmpf.panasonic.com

ポータルサイトの [ダッシュボード] 画面が表示されます。

2 [ダウンロード] タブをクリックする。



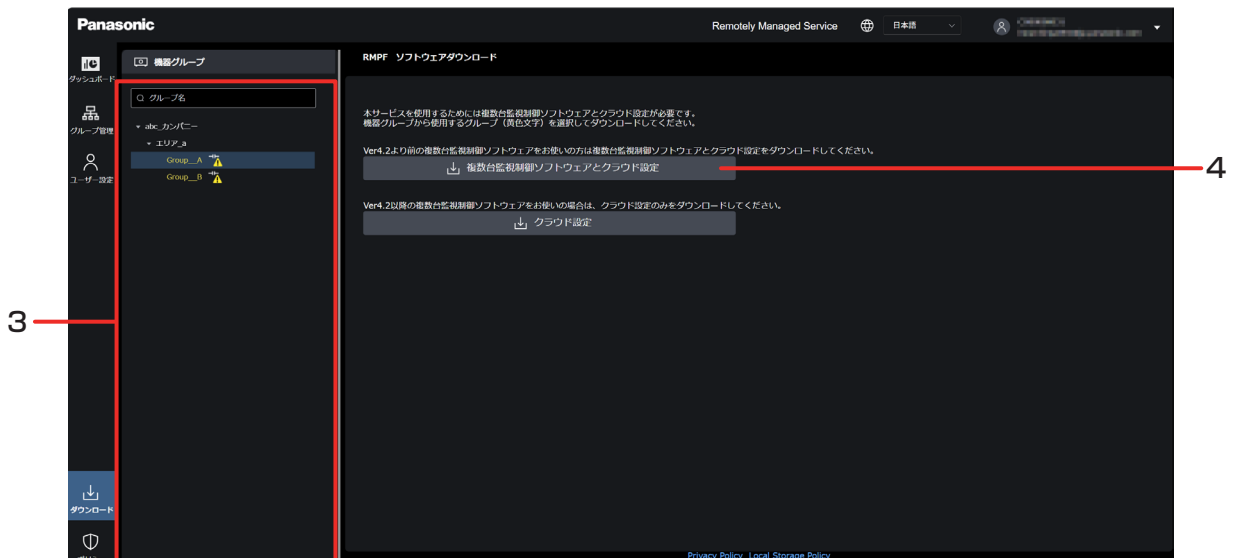
[ダウンロード] 画面が表示されます。

3 機器グループを選択する。

[機器グループ] に表示されているツリー上で、監視対象とする機器グループを選択する。

4 [複数台監視制御ソフトウェアとクラウド設定] ボタンをクリックする。

zip ファイルをダウンロードして、[[ダウンロード] 画面] → [② [複数台監視制御ソフトウェアとクラウド設定] ボタン] (👁️ 40 ページ) に従って操作してください



お知らせ

- 監視端末に、監視サービスに対応した複数台監視制御ソフトウェア (Ver4.2.0 以降) をインストールしていない場合は、この項目に従って操作を行うことをお勧めします。
- すでに複数台監視制御ソフトウェアのインストールが完了している監視端末で再度インストーラーを起動させると、ソフトウェアの修復または削除を選択する画面が表示されますので、目的に応じて選択してください。
 - 修復：ソフトウェアのみを上書き更新します。
 - 削除：ソフトウェアをアンインストールし、改めてインストールします。既存データを保存し、ソフトウェアのみを更新したい場合は [修復] を選択することをお勧めします。
- この項目の操作を行うと、複数台監視制御ソフトウェアのインストールと同時に、クラウド設定ファイルが複数台監視制御ソフトウェアにインポートされ、クラウド接続が自動で完了します。

クラウド設定ファイルのダウンロードとインポート

複数台監視制御ソフトウェアで収集した情報をクラウドサーバーデータベースに登録するためには、監視サービスと複数台監視制御ソフトウェア (Ver4.2.0 以降) を紐づける必要があります。

1 Web ブラウザーを起動し、次の URL にアクセスしてリモートマネージドサービスにログインする。

https://pp.rmpf.panasonic.com

ポータルサイトの [ダッシュボード] 画面が表示されます。

2 [ダウンロード] タブをクリックする。



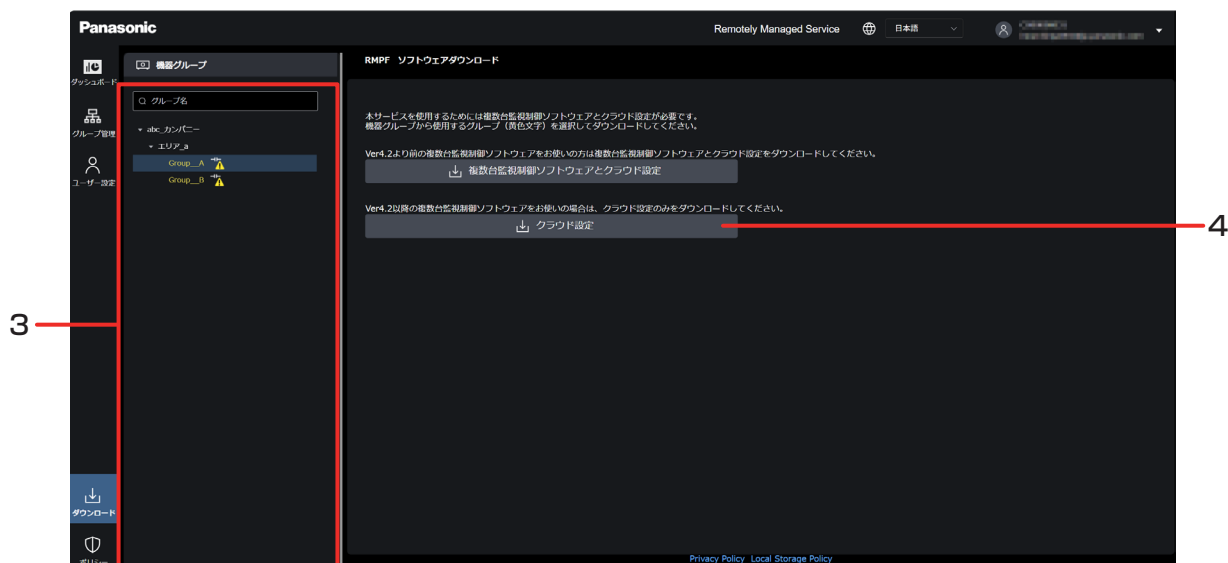
[ダウンロード] 画面が表示されます。

3 機器グループを選択する。

[機器グループ] に表示されているツリー上で、監視対象とする機器グループを選択する。

4 [クラウド設定] ボタンをクリックする。

クラウド設定ファイルをダウンロードして、「[ダウンロード] 画面」→「③ [クラウド設定] ボタン」(41 ページ) に従って操作してください。



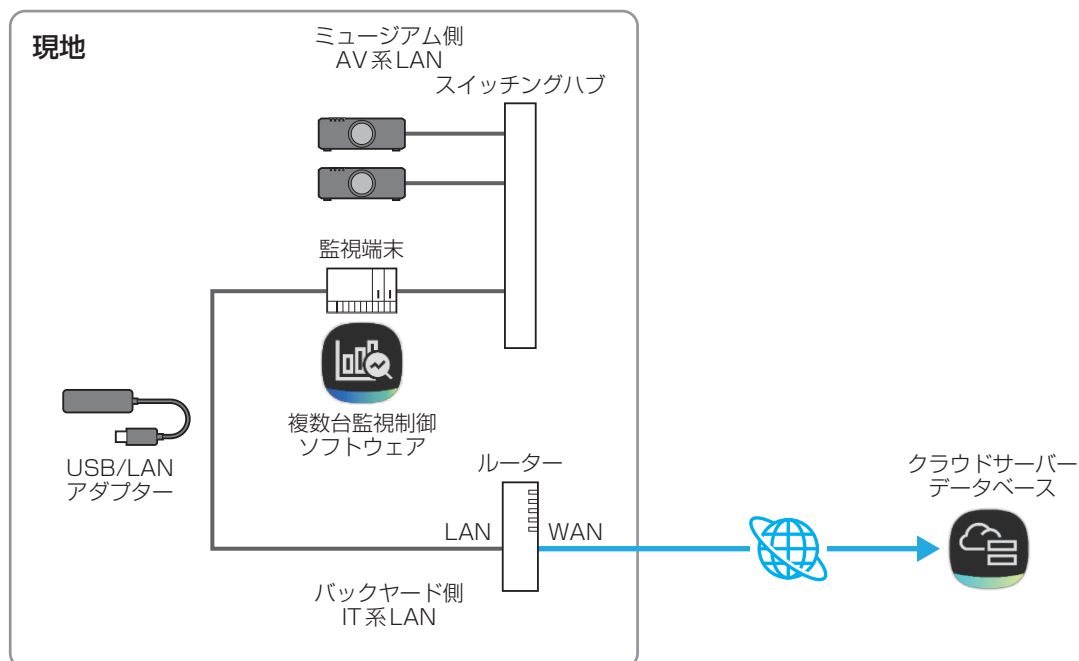
お知らせ

- 「アプリケーションソフトのダウンロードとインストール」(👁️ 21 ページ) の操作を行っている場合、この項目の操作を行う必要はありません。
- 監視端末に、監視サービスに対応した複数台監視制御ソフトウェア (Ver4.2.0 以降) をすでにインストールしている場合は、この項目に従って操作を行うことをお勧めします。
- この項目の操作を行うと、クラウド設定ファイルが複数台監視制御ソフトウェアにインポートされ、クラウド接続が自動で完了します。

ネットワーク設定

監視端末をインターネットに接続します。

下記は、AV系LANとIT系LANの2つの独立したネットワークが存在し、インターネットにはIT系LANからのみアクセスできる構成例です。このネットワーク構成の場合、USB-LANアダプターなどのNIC (Network Interface Card) を監視端末に増設したうえで、監視端末をAV系LANとIT系LANの両方に接続します。



監視端末を2つのNICを介してAV系LANとIT系LANのそれぞれに接続した状態で、次の手順に従ってネットワーク設定を行ってください。

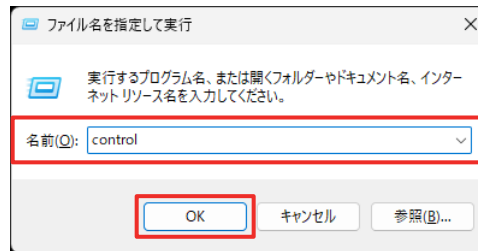
お知らせ

- 次の情報は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
監視端末に付与するIPアドレス (IT系LANとAV系LAN)
ルーターのIPアドレス (IT系LANのみ)
DNSサーバーのアドレス (IT系LANのみ)
- AV系LANに接続したNICには、DHCPサーバーからIPアドレスを付与する設定を行わないでください。IT系LANに接続したNICには、DHCPサーバーからIPアドレスを付与する設定をしても問題ありません。

IT系LANのネットワーク設定

1 WindowsキーとRキーを同時に押して [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスを表示する。

2 [名前] に [control] と入力してから [OK] をクリックする。



[コントロール パネル] 画面が表示されます。

3 [ネットワークとインターネット]、[ネットワークと共有センター]、[アダプターの設定の変更] の順にクリックする。

4 IT系LANに接続しているNICに該当するイーサネットのアイコンをダブルクリックする。

[イーサネットの状態] 画面が表示されます。

5 [プロパティ] をクリックする。

[イーサネットのプロパティ] 画面が表示されます。

6 [インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)] を選択し、[プロパティ] をクリックする。

[インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ] 画面が表示されます。

監視端末のIPアドレスを、DHCPサーバーを利用して自動付与せずに具体的に指定する場合は、手順 7 に進んでください。DHCPサーバーを利用して監視端末のIPアドレスを自動付与する場合は、手順 8 に進んでください。

7 [次のIPアドレスを使う] を選択し、[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ] を指定する。

- [IPアドレス] には、監視端末に付与するIPアドレスを入力します。
- [サブネットマスク] には、監視端末に付与するIPアドレスに合ったアドレスを入力します。
- [デフォルトゲートウェイ] には、ルーターのIPアドレスを入力します。

DNSサーバーを指定する場合は手順 12 に、指定しない場合は手順 13 に進んでください。

8 [IPアドレスを自動的に取得する] を選択し、[詳細設定] をクリックする。

[TCP/IP 詳細設定画面] が表示されます。

9 [IP設定] タブにある [デフォルトゲートウェイ] の [追加] をクリックする。

[TCP/IPゲートウェイアドレス] ダイアログボックスが表示されます。

10 [ゲートウェイ] にルーターのIPアドレスを入力し、[追加] をクリックする。

11 [OK] をクリックして [TCP/IP 詳細設定] 画面を閉じる。

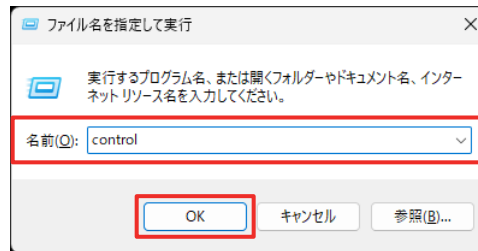
DNSサーバーを指定する場合は手順 12 に、指定しない場合は手順 13 に進んでください。

12 [次のDNSサーバーのアドレスを使う] を選択し、使用するDNSサーバーのアドレスを [優先DNSサーバー] と [代替DNSサーバー] に入力する。

13 [OK] または [閉じる] をクリックしてすべての画面を閉じる。

AV系LANのネットワーク設定

- 1 WindowsキーとRキーを同時に押して [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスを表示する。
- 2 [名前] に [control] と入力してから [OK] をクリックする。



[コントロール パネル] 画面が表示されます。

- 3 [ネットワークとインターネット]、[ネットワークと共有センター]、[アダプターの設定の変更] の順にクリックする。
- 4 AV系LANに接続しているNICに該当するイーサネットのアイコンをダブルクリックする。
[イーサネットの状態] 画面が表示されます。
- 5 [プロパティ] をクリックする。
[イーサネットのプロパティ] 画面が表示されます。
- 6 [インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)] を選択して [プロパティ] をクリックする。
[インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ] 画面が表示されます。
- 7 [次のIPアドレスを使う] を選択し、[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ] を指定する。
[IPアドレス] には、監視端末に付与するIPアドレスを入力します。監視対象のプロジェクターとの通信が可能なIPアドレスを指定してください。
[サブネットマスク] には、監視端末に付与するIPアドレスに合ったアドレスを入力します。
[デフォルトゲートウェイ] は空欄にします。
- 8 [次のDNSサーバーのアドレスを使う] を選択し、[優先DNSサーバー] と [代替DNSサーバー] を空欄にする。
- 9 [OK] または [閉じる] をクリックしてすべての画面を閉じる。

接続の確認

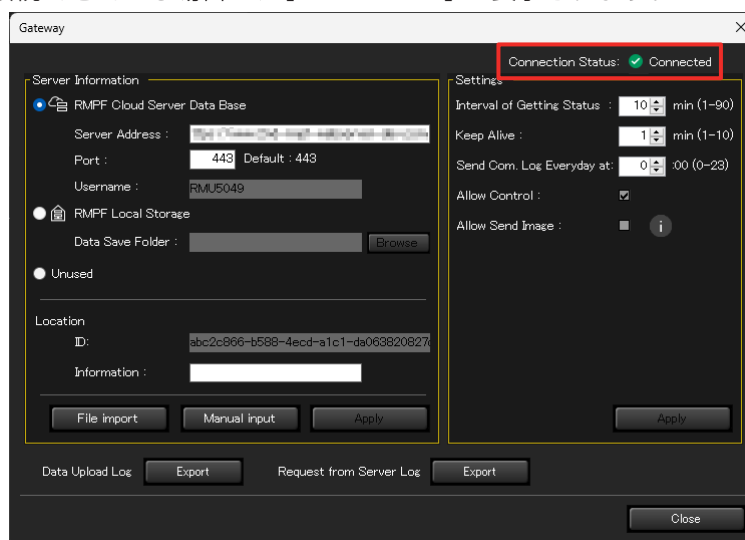
監視端末のクラウドサーバーへの接続状況は次の手順で確認できます。

- 1 複数台監視制御ソフトウェアを起動し、[リモートメンテナンス] タブ、[初期設定] タブ、[Gateway] の順にクリックする。

[Gateway] 画面が表示されます。

- 2 [Connection Status] の表示を確認する。

クラウドサーバーに接続できている場合は、[Connected] と表示されます。



お知らせ

- インターネットに接続できていない場合、またはクラウドサーバーに接続できていない場合は、[Not Connected] と表示されます。インターネットへの接続が可能な設定になっているか、「ネットワーク設定」(👁 25 ページ) の各設定項目を確認してください。または、「クラウド設定ファイルのダウンロードとインポート」(👁 23 ページ) に従って操作を行い、クラウドサーバーへの接続ができるようにしてください。

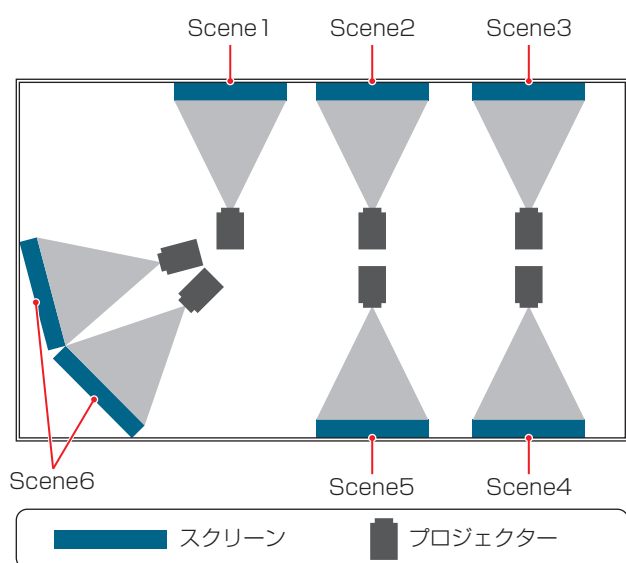
プロジェクターの登録

監視対象となるプロジェクターを複数台監視制御ソフトウェアに登録します。
登録方法の詳細は『複数台監視制御ソフトウェア 取扱説明書』を参照してください。

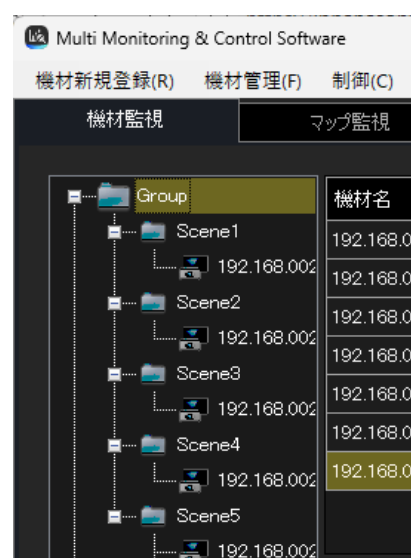
- 1 複数台監視制御ソフトウェアを起動する。
- 2 [Group] フォルダの下に、各スクリーンごとのフォルダを作成する。
- 3 作成したスクリーンのフォルダの下に、そのスクリーンに投写するプロジェクターを登録する。

下図は、プロジェクターとスクリーンの設置状況に合わせた複数台監視制御ソフトウェアでのグループ設定例です。

実際のプロジェクターとスクリーンの配置



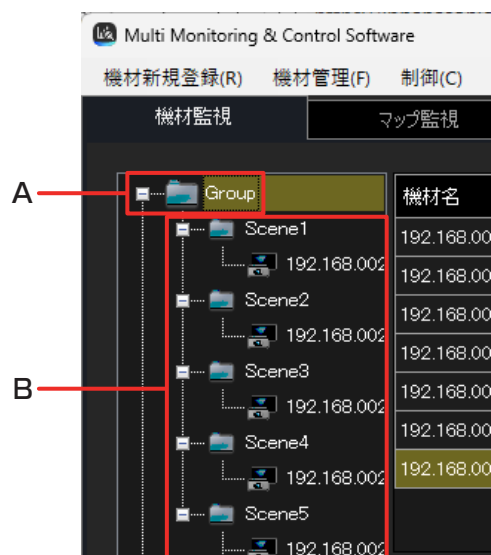
複数台監視制御ソフトウェアのグループ設定



リモートマネージドサービスポータルサイトの [ダッシュボード] 画面では、複数台監視制御ソフトウェアのグループ設定に基づいて、次のように表示されます。

なお、①、②、③の表示名は、サービス契約時に取り決めたものになります。変更を行う場合は [グループ管理] 画面の [設置場所設定] タブを参照してください。(☞ 37 ページ)

複数台監視制御ソフトウェアのグループ設定



ポータルサイトの [ダッシュボード] 画面



① ユーザー名

② プロジェクト

③ グループ

複数台監視制御ソフトウェアの親グループ (A) の「Group」に該当します。

④ スクリーン名

複数台監視制御ソフトウェアで親グループ (A) の下に作成したグループフォルダー (B) に該当します。

オンサイトマップ表示設定

監視サービスで閲覧するオンサイトマップを設定します。プロジェクターやスクリーンの設置場所を示す画像を読み込み、その上にプロジェクターのステータスアイコンを配置します。この設定をしておくことで、インシデント発生時にプロジェクターの位置を把握しやすくなります。

お知らせ

設定を行う前に、オンサイトマップに表示する画像ファイルとプロジェクター情報を準備してください。

- プロジェクターおよびスクリーン配置を示す次のような画像ファイル（拡張子 bmp、jpg、png）。
画像ファイルは 7 MB 以下のサイズで準備してください。
 - フロア図
 - 設置する機器の系統図
 - 設置場所の現地の写真
- プロジェクターを特定するための情報（いずれかひとつ）
 - 機器名
 - IP アドレス
 - MMCS メモ 1
 - MMCS メモ 2

1 Web ブラウザーを起動し、次の URL にアクセスしてリモートマネージドサービスにログインする。

<https://pp.rmpf.panasonic.com>

ポータルサイトの [ダッシュボード] 画面が表示されます。

2 [グループ管理] をクリックする。

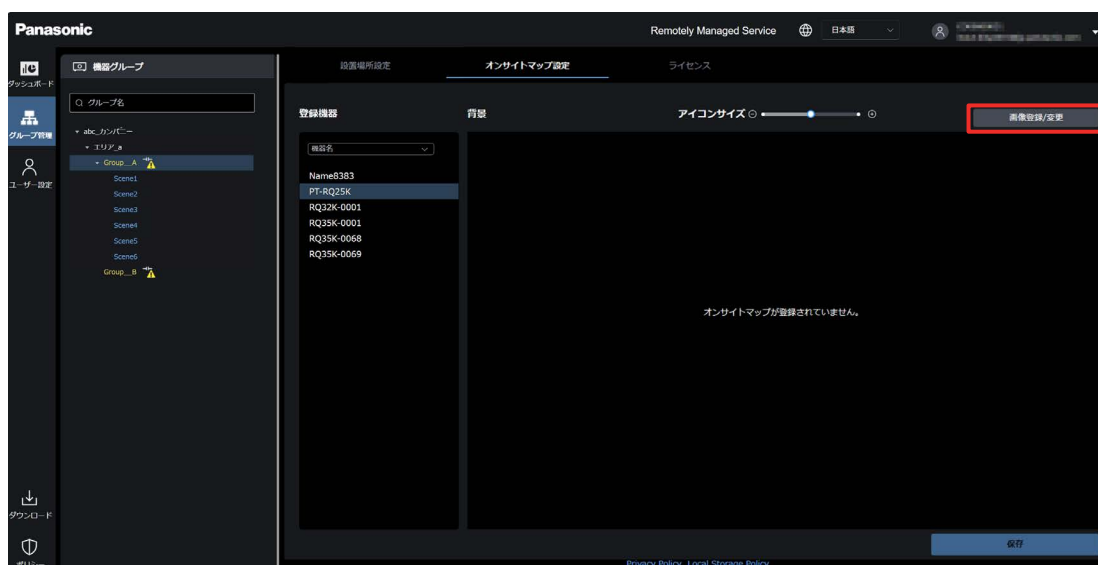


[グループ管理] 画面が表示されます。

3 [オンサイトマップ設定] タブをクリックする。

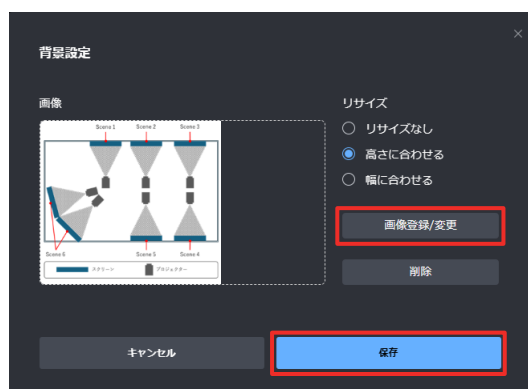
[機器グループ] エリアと [設置場所設定] タブ / [オンサイトマップ設定] タブが表示されます。

4 [画像登録/変更] をクリックする。



[背景設定] ダイアログボックスが表示されます。

5 [背景設定] ダイアログボックスの [画像登録/変更] ボタンをクリックし、オンサイトマップにする画像ファイルを指定して [保存] をクリックする。



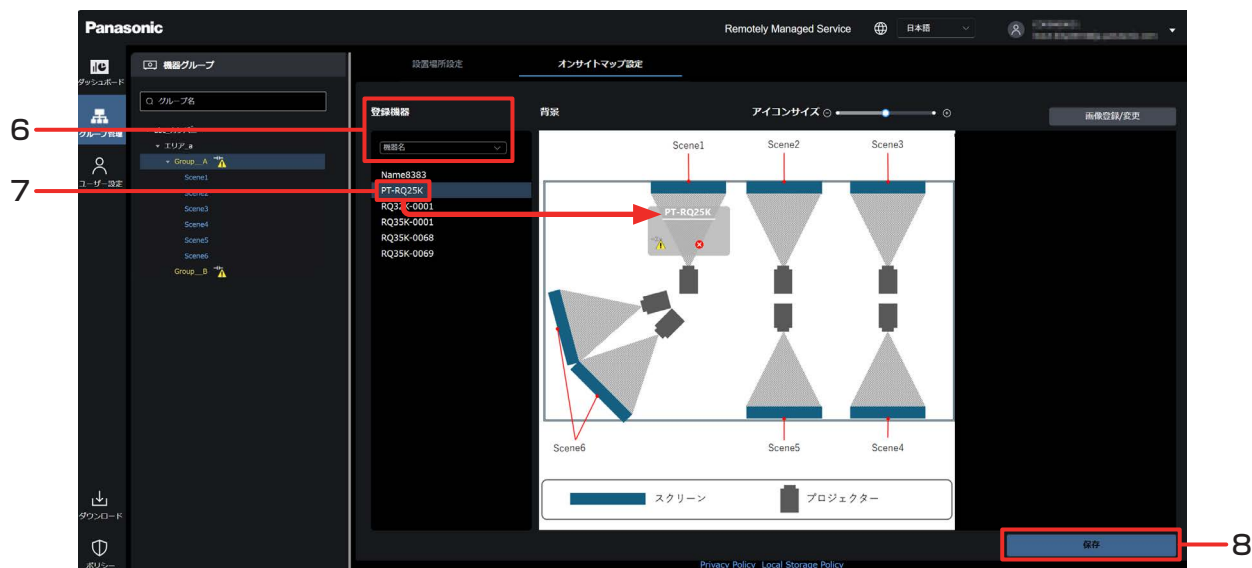
- 6 [登録機器] の表示方法 (機器名、IP アドレス、MMCS メモ 1、MMCS メモ 2) を選択する。
- 7 [登録機器] に一覧表示されているプロジェクターをドラッグし、オンサイトマップ上の配置したい位置にドロップする。

ドラッグ中はステータスアイコンが表示されます。

お知らせ

- ステータスアイコンの上段に表示されているプロジェクターを特定するための情報 (機器名、IP アドレス、MMCS メモ 1、MMCS メモ 2) は、手順 6 の操作でいつでも切り替えることができます。

- 8 すべてのプロジェクターの配置を終えたら [保存] をクリックする。



運用

リモートマネージドサービスへのアクセス方法

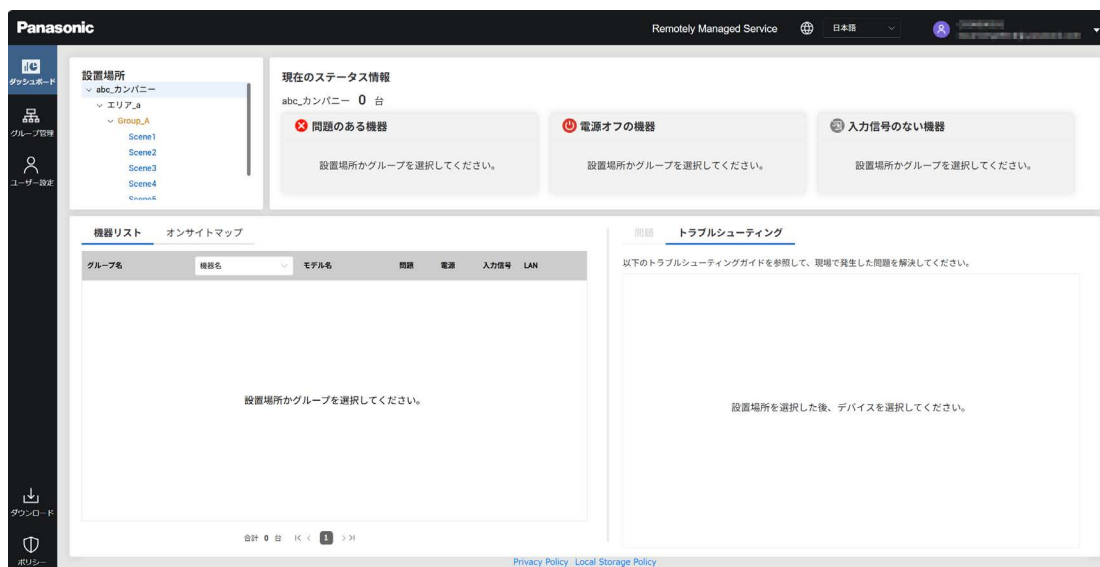
リモートマネージドサービスには次の操作でアクセスできます。

1 Web ブラウザーを起動し、次の URL の Web ページを開く。

https://pp.rmpf.panasonic.com

2 [アカウント名] と [パスワード] を入力してから [ログイン] をクリックする。

ポータルサイトの [ダッシュボード] 画面が表示されます。

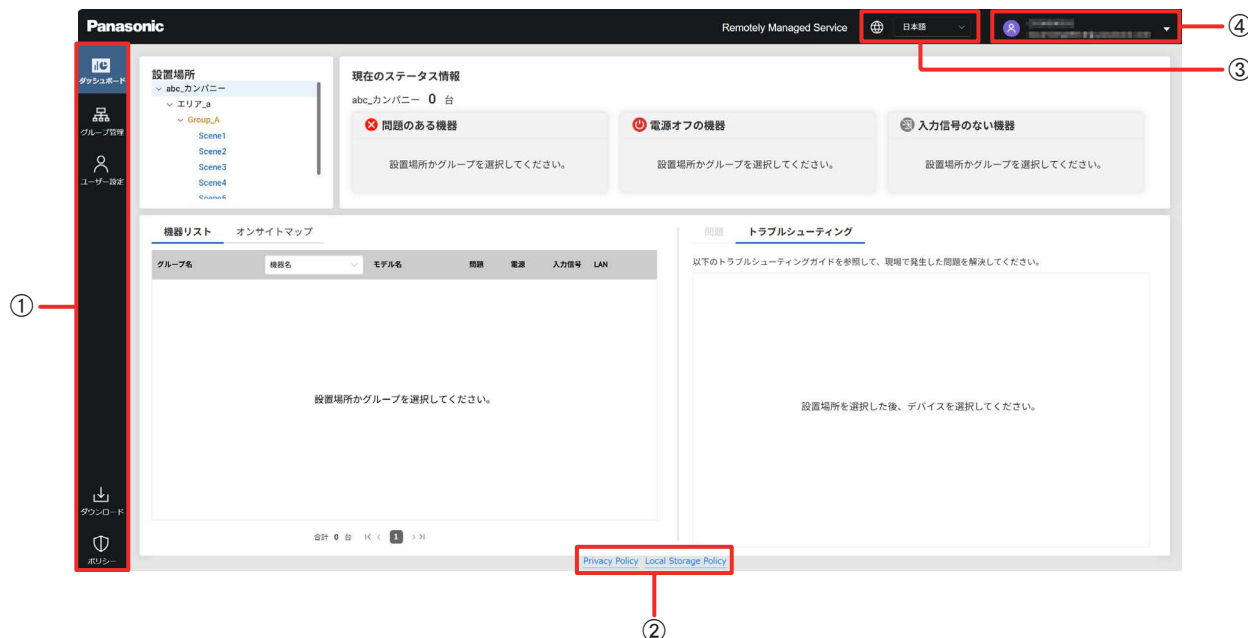


お知らせ

- 新しいパスワードの設定を要求する画面が表示されたときは、新しいパスワードを指定してください。
- パスワードを忘れた場合は、ログイン画面で [パスワードを忘れた方] をクリックし、再設定を行ってください。

ポータルサイトの画面操作

リモートマネージドサービスにアクセスしてログインすると、そのポータルサイトが表示され、監視サービスをはじめとする各種サービスの設定や操作を行うことができます。ここでは、監視Basicの画面操作について説明します。



① メニュー

- [ダッシュボード]： [ダッシュボード] 画面 (36 ページ) を表示します。
- [グループ管理]： [グループ管理] 画面 (37 ページ) を表示します。
- [ユーザー設定]： [ユーザー設定] 画面 (38 ページ) を表示します。
- [ダウンロード]： [ダウンロード] 画面 (40 ページ) を表示します。
- [ポリシー]： [ポリシー] 画面 (49 ページ) を表示します。

② [Privacy Policy] / [Local Storage Policy]

メニューの [ポリシー] をクリックしたときと同じ [ポリシー] 画面 (49 ページ) を表示します。

③ 表示言語切り替えリストボックス

ポータルサイトの表示言語を切り替えます。

④ アカウント表示部

現在ログイン中のユーザーアカウントのユーザーグループとアカウント名が表示されます。

▼ をクリックすると次のメニューが表示されます。

- [ログアウト]： ポータルサイトからログアウトします。
- [マイアカウント設定]： [マイアカウント設定] 画面を表示します。この画面ではアカウントの設定の確認や、ログインパスワードの変更ができます。
- [ライセンス]： ポータルサイトに使用されているオープンソースソフトウェアのライセンス情報が表示されます。

[ダッシュボード] 画面



① [設置場所]

登録されているスクリーンのフォルダーが、ツリー形式で表示されます。

② [現在のステータス情報]

[設置場所] のツリー表示部で選択されているグループまたはスクリーンのフォルダー下に登録されているプロジェクターのうち、エラーが発生しているプロジェクター、電源が切れているプロジェクター、入力信号のないプロジェクターの台数が表示されます。

③ [機器リスト] / [オンサイトマップ]

[機器リスト] タブには、ツリー表示部で選択されているグループまたはスクリーンのフォルダー下に登録されているプロジェクターの一覧が表示されます。

[オンサイトマップ] タブには、ツリー表示部で選択されているグループまたはスクリーンのオンサイトマップが表示されます。

- プロジェクターにエラーが発生しています。
- プロジェクターの電源が切れています。(スタンバイ状態です。)
- プロジェクターの電源が入っています。(投写状態です。)
- プロジェクターとの通信ができないため、電源状態を取得できません。
- 入力信号が検出されています。
- 入力信号が検出されていません。

④ [問題] / [トラブルシューティング]

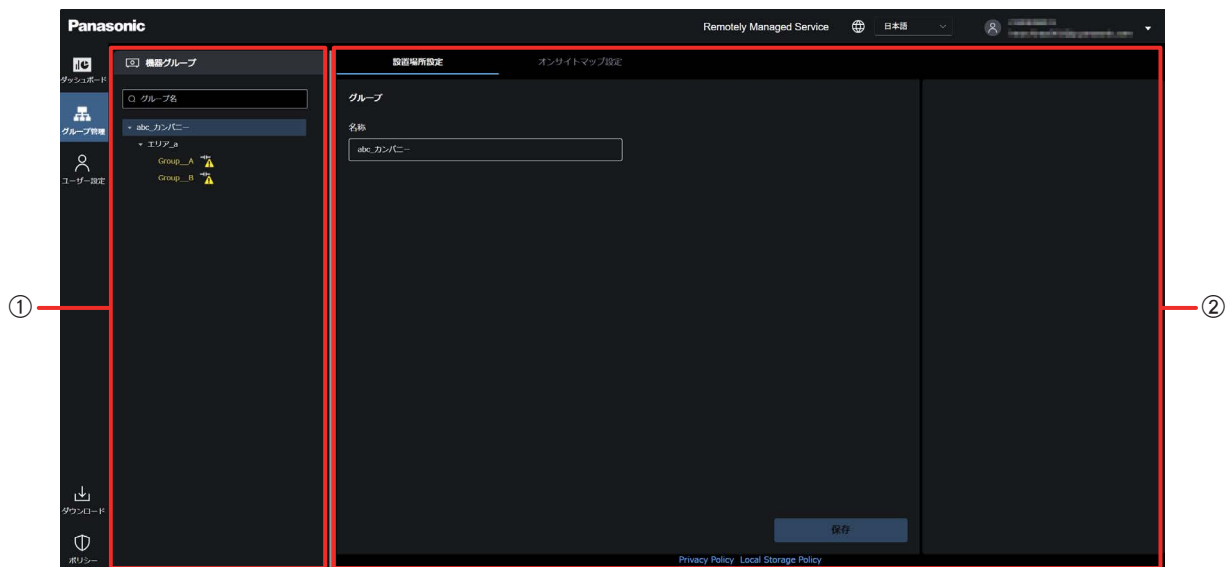
プロジェクターにエラーが発生している場合は、③の[機器リスト]または[オンサイトマップ]で該当のプロジェクターを選択し、[問題]タブを選択してください。エラーの詳細が表示されます。

[トラブルシューティング]タブを選択すると、発生中のエラーへの対処方法が表示されます。

お知らせ

- エラーの詳細に記載されている記号(エラーコード)については、お使いのプロジェクターの取扱説明書の『自己診断表示について』をご確認ください。

[グループ管理] 画面



① [機器グループ]

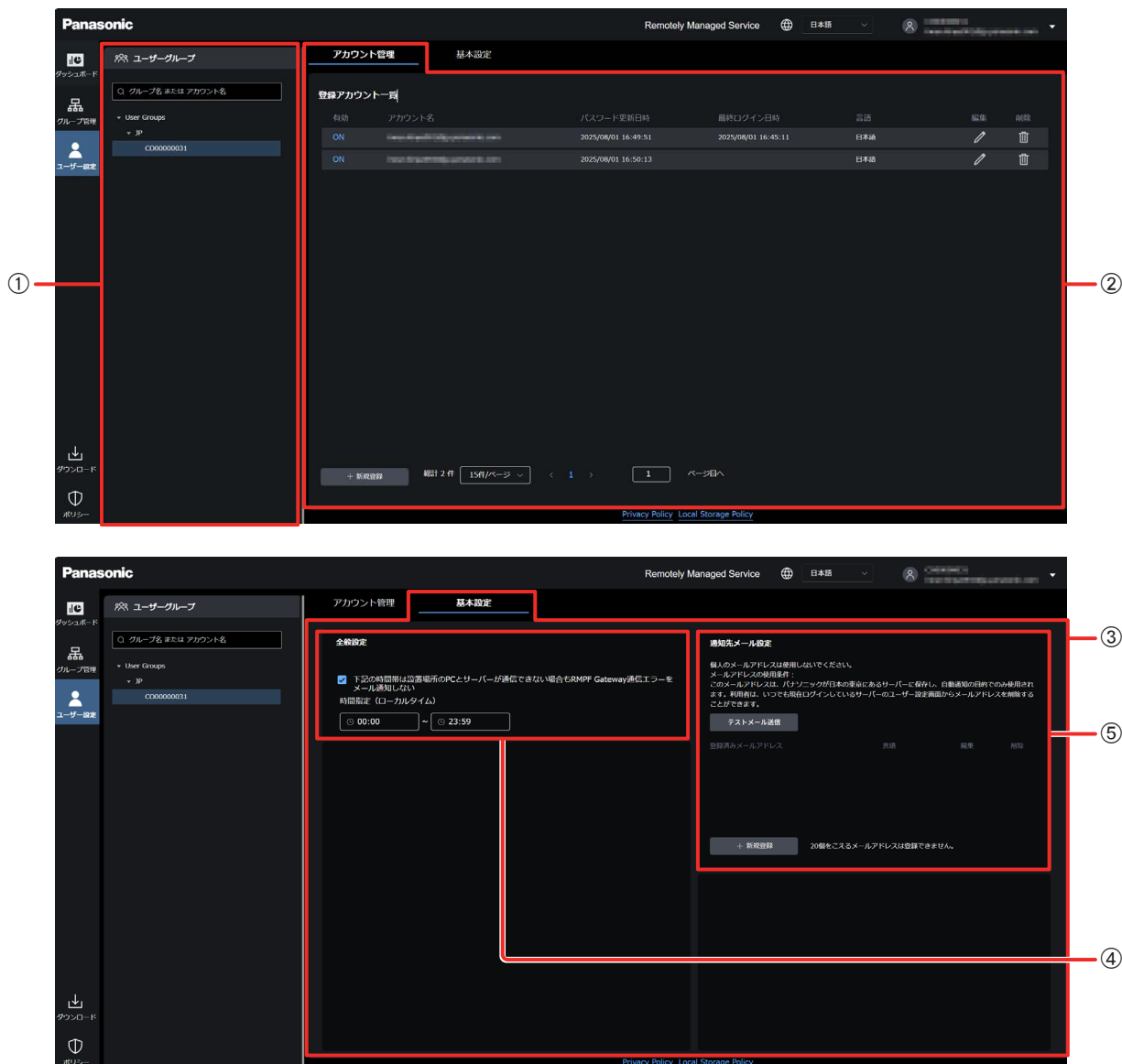
登録されているスクリーンのフォルダーが、グループごとにツリー形式で表示されます。

② [設置場所設定] / [オンサイトマップ設定]

[設置場所設定] タブではグループ名を変更できます。

[オンサイトマップ設定] では、オンサイトマップを登録または変更できます。

[ユーザー設定] 画面



① [ユーザーグループ]

登録されているユーザーグループがツリー形式で表示されます。
ユーザーグループの登録は管理者が行います。

② [アカウント管理]

[ユーザーグループ] で選択中のグループに属するユーザーアカウントが表示されます。

③ [基本設定]

エラーが発生した際の通知について設定します。[全般設定] と [通知先メール設定] を設定できます。

④ [全般設定]

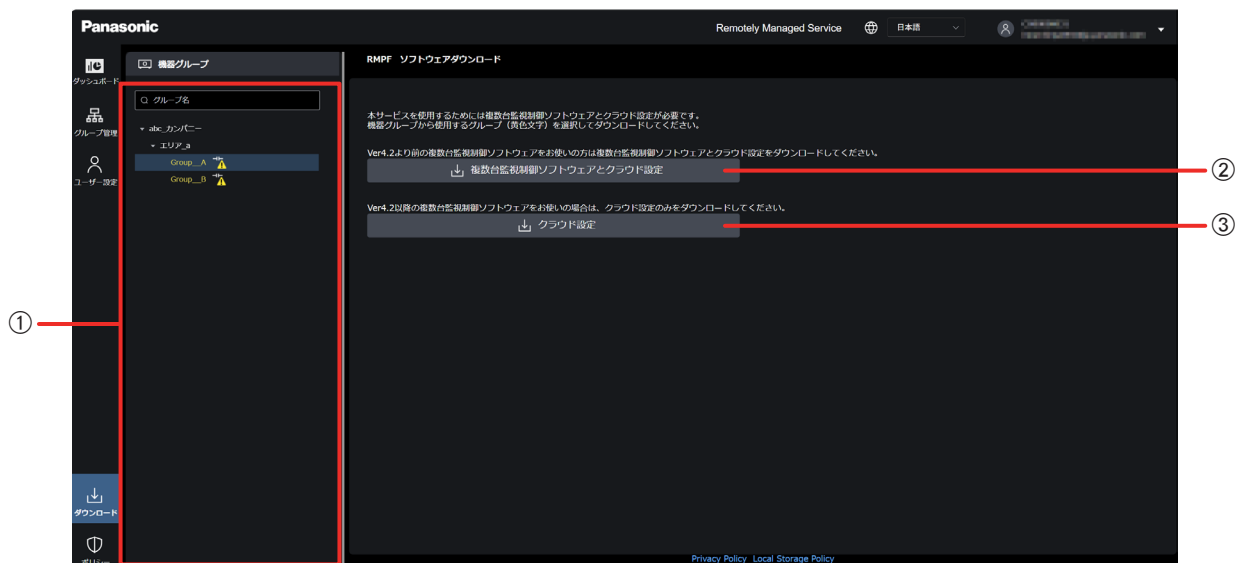
エラー検出無効時間帯を設定します。クラウドサーバーと監視端末の間で通信ができない場合、登録済みのメールアドレスに通信エラーのメールが送信されます。毎晩夜間に監視端末が休止しているなど、通信エラーのメール通知を無効にしたい時間帯がある場合は、[下記の時間帯は設置場所のPCとサーバーが通信できない場合もRMPF Gateway 通信エラーをメール通知しない] のチェックボックスにチェックを入れて、無効にしたい時間（監視端末のローカルタイム）を設定してください。

⑤ [通知先メール設定]

エラーが発生した際のメール通知先を設定します。

👁️ 「通知先の設定」(45 ページ)

[ダウンロード] 画面



① [機器グループ]

登録されているグループ（文字色：黄色）が、ツリー形式で表示されます。

例)

abc カンパニー ……ユーザー名
 ↳ エリア_a ……プロジェクト
 ↳ Group__A ……グループ

グループを選択すると、[複数台監視制御ソフトウェアとクラウド設定] ボタンと [クラウド設定] ボタンがアクティブ状態になります。

② [複数台監視制御ソフトウェアとクラウド設定] ボタン

複数台監視制御ソフトウェアとクラウド設定ファイルをまとめてダウンロードします。

複数台監視制御ソフトウェアがインストールされていない場合、またはすでにインストールされている複数台監視制御ソフトウェアのバージョンが 4.2 よりも前の場合に選択してください。

ダウンロード方法は次のとおりです。

1. ボタンをクリックします。
2. 使用許諾に同意します。
zip ファイルのダウンロードが開始します。
3. ダウンロードした zip ファイルを解凍します。
4. 解凍したファイルの中にある複数台監視制御ソフトウェアのインストーラー (msi) をダブルクリックして、複数台監視制御ソフトウェアをインストールします。
インストールと同時に、クラウド設定ファイルが複数台監視制御ソフトウェアにインポートされ、クラウド接続が自動で完了します。

③ [クラウド設定] ボタン

クラウド設定ファイルをダウンロードします。

監視サービスに対応した複数台監視制御ソフトウェア (Ver4.2.0 以降) をすでにインストールしている場合に選択してください。複数台監視制御ソフトウェアのインストール作業は不要です。

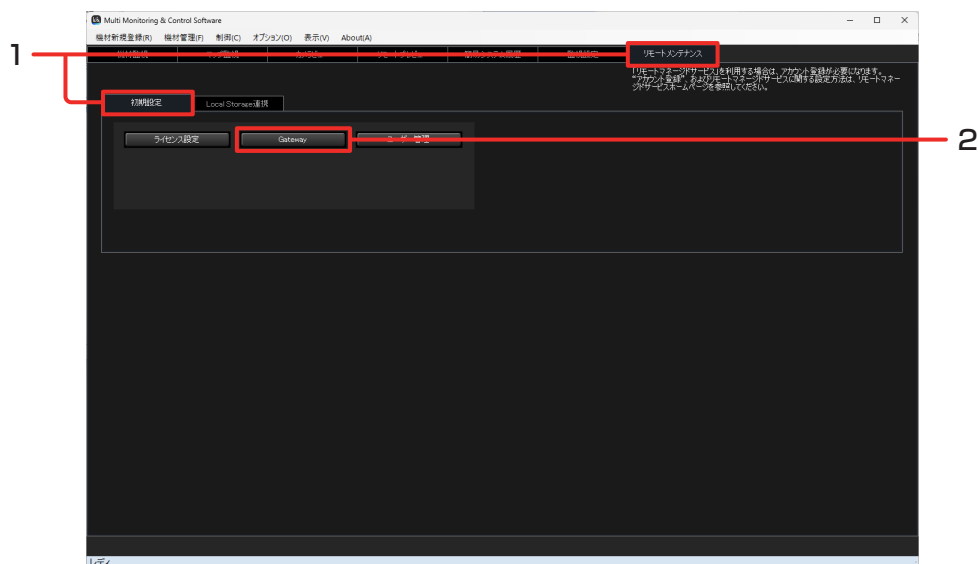
ダウンロード方法は次のとおりです。

1. ボタンをクリックします。
クラウド設定ファイル (拡張子 rmpf、AES 256 による暗号化ファイル) のダウンロードが開始します。
2. ダウンロードしたクラウド設定ファイルを、複数台監視制御ソフトウェアにインポートします。
複数台監視制御ソフトウェアのインポート方法については、「クラウド設定ファイルのインポート方法」を参照してください。(👁️ 41 ページ)

■クラウド設定ファイルのインポート方法

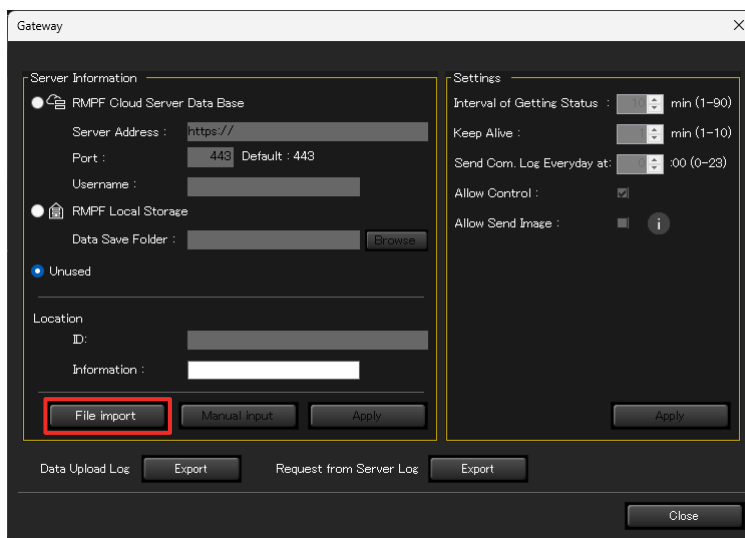
1 複数台監視制御ソフトウェアを起動し、[リモートメンテナンス] タブを選択してから、[初期設定] タブを選択する。

2 クラウドサーバーへの接続設定を行うため、[Gateway] ボタンをクリックする。



[Gateway] 画面が表示されます。

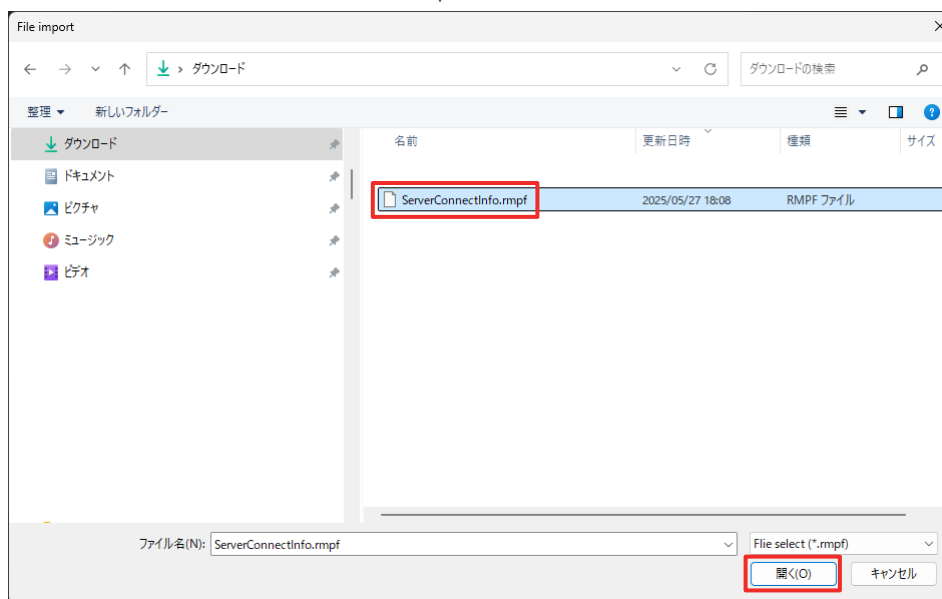
3 [File import] ボタンをクリックする。



[File import] 画面が表示されます。

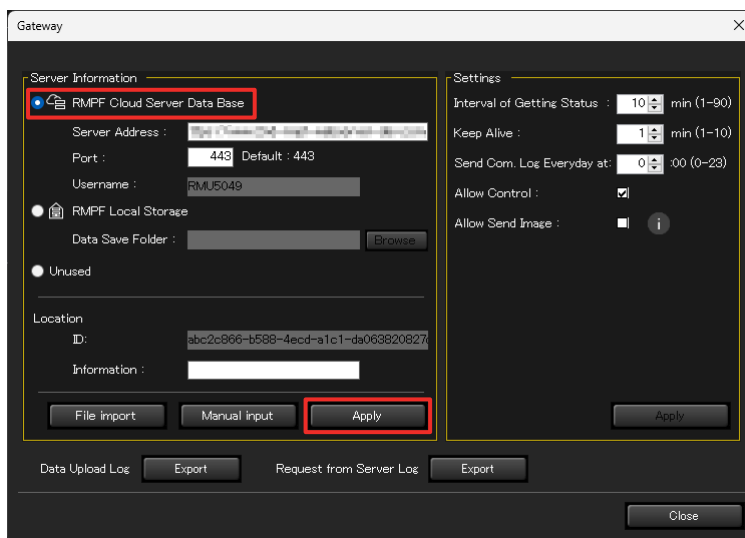
4 ダウンロードしたクラウド設定ファイルを選択してから [開く] ボタンをクリックする。

クラウド設定ファイル：ServerConnectInfo.rmpf



ダウンロードしたクラウド設定ファイルをインポートします。インポートした情報でクラウド接続を行います。クラウド接続に成功した場合は、手順 6 に進んでください。クラウド接続に失敗した場合は、手順 5 に進んでください。

5 [Gateway] 画面の [RMPF Cloud Server Data Base] を選択し、[Apply] ボタンをクリックする。

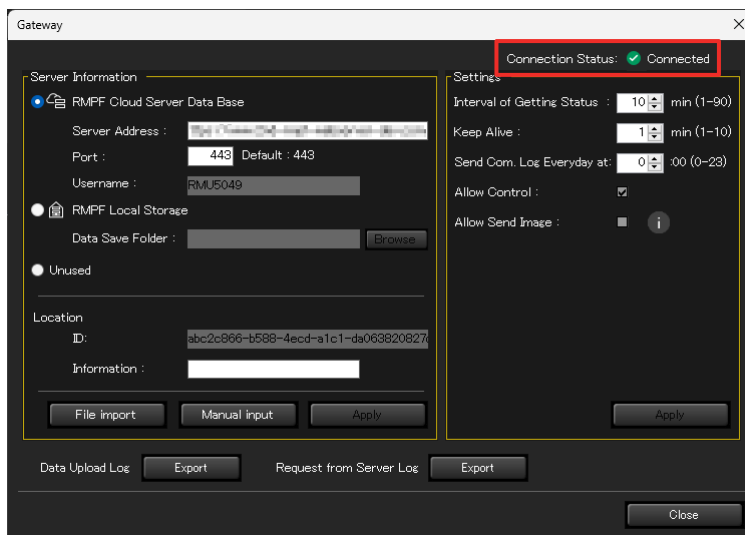


The screenshot shows the 'Gateway' configuration window. On the left, under 'Server Information', the 'RMPF Cloud Server Data Base' option is selected and highlighted with a red box. Below it, the 'Server Address', 'Port' (443), and 'Username' (RMU5049) fields are visible. The 'RMPF Local Storage' and 'Unused' options are also present. On the right, the 'Settings' section includes 'Interval of Getting Status' (10 min), 'Keep Alive' (1 min), and 'Send Com. Log Everyday at' (0:00). The 'Apply' button at the bottom right of the 'Server Information' section is highlighted with a red box.

インポートしたクラウド設定ファイルに基づいて、クラウドサーバーへの接続を行います。

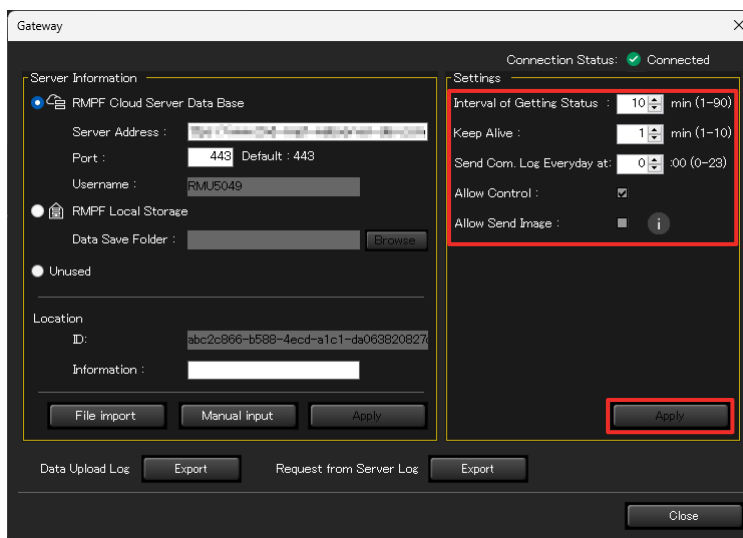
6 [Connection Status] の表示を確認する。

クラウドサーバーへの接続が完了すると [Connected] と表示されます。



The screenshot shows the 'Gateway' configuration window after the connection is established. At the top right, the 'Connection Status' is displayed as 'Connected' with a green checkmark, highlighted by a red box. The 'Server Information' and 'Settings' sections remain the same as in the previous screenshot.

7 必要に応じてクラウド接続設定を変更してから、[Apply] ボタンをクリックする。



変更した設定項目が反映されます。

設定変更可能な項目

① [Interval of Getting Status] : 情報送信間隔

クラウドサーバーに送信する機器情報の送信間隔を、1分から90分の範囲で設定します。(デフォルト: 10分)

② [Keep Alive] : 接続維持通信間隔

クラウドサーバーとの接続維持のためのコマンド送信間隔を、1分から10分の範囲で設定します。(デフォルト: 1分)

③ [Send Com. Log Everyday at] : 送信ログ情報送信時刻設定

Gatewayの送信コマンドログ情報をクラウドサーバーに送信する時刻を、毎日0時～23時までの範囲で設定します。(デフォルト: 0時)

お知らせ

- 監視Basicの[Gateway]画面では、次の機能の設定変更はできません。
 - [Server Information] – [RMPF Local Storage]
 - [Settings] – [Allow Control]、[Allow Send Image]

通知先の設定

次のようなエラーが発生した際のメール通知先を設定します。

- 監視対象のプロジェクターにエラーが発生した場合
- クラウドサーバーと監視端末の通信エラーが発生した場合

画面左側のメニューから [ユーザー設定] をクリックし、[基本設定] タブを選択します。

- 1 [通知先メール設定] – [新規登録] をクリックする。
- 2 [登録済みメールアドレス] に通知先として指定するメールアドレスを入力し、送信メールの [言語] を選択する。
- 3 [OK] をクリックする。
メールアドレスが登録されます。
- 4 [テストメール送信] をクリックし、指定したメールアドレスにメールが届いたかを確認する。



お知らせ

- 登録済みのメールアドレスに対して、次の編集操作ができます。

- 🗑️ 登録済みのメールアドレスを削除できます。
- ✎ 登録済みメールアドレスと送信メールの言語を変更できます。

3 [保存] をクリックする。

アカウント設定

状態
有効

アカウント名

パスワード

ユーザーグループ

- JP
- JP / CO00000031

言語
日本語

温度表記
摂氏(°C)

画面更新間隔
30 秒

キャンセル 保存

[アカウント管理] – [登録アカウント一覧] の項目に、登録したユーザーアカウントが表示されます。

お知らせ

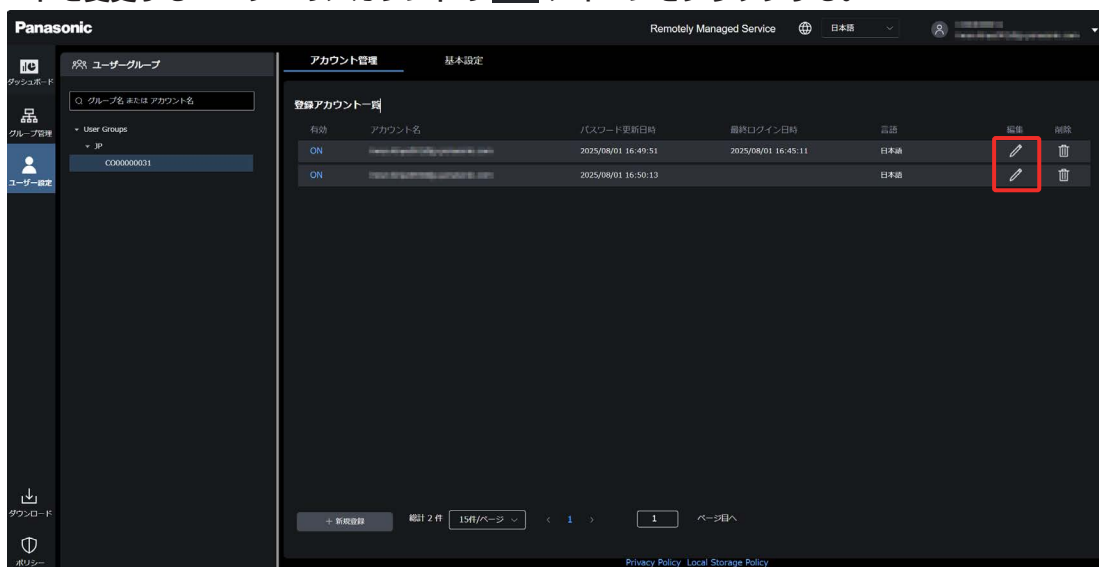
- [アカウント管理] 画面では、登録済みのユーザーアカウントに対して次の編集操作ができます。
 - 🗑️ 登録済みのメールアドレスを削除できます。
 - ✎ [アカウント設定] 画面が表示され、[アカウント名]、[パスワード]、[ユーザーグループ]、[言語]、[温度表記]、[画面更新間隔] を変更できます。

パスワードのリセット

利用者がリモートマネージドサービスにアクセスするためのパスワードを忘れた場合、サービスの管理者が次の手順を実行して、設定済みのパスワードをリセットし、新しいパスワードを登録します。新しく登録したパスワードを利用者に提供してください。

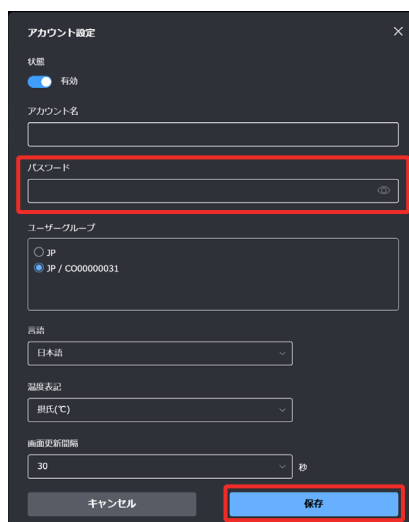
画面左側のメニューから [ユーザー設定] をクリックし、[アカウント管理] タブを選択します。

1 パスワードを変更するユーザーのアカウントの アイコンをクリックする。



[アカウント設定] 画面が表示されます。

2 新しく登録するパスワードを [パスワード] に入力して [保存] をクリックする。



アカウント設定

状態
 有効

アカウント名
[入力欄]

パスワード
[入力欄]

ユーザーグループ
 JP
 JP / CO00000031

言語
日本語

温度表記
摂氏(°C)

画面更新間隔
30 秒

キャンセル

[アカウント管理] - [登録アカウント一覧] に、設定済みのパスワードがリセットされ、新しいパスワードに置き換わります。

個人情報保護方針について

【ポリシー】 画面

画面左側のメニューから【ポリシー】をクリックすると【ポリシー】画面が表示され、リモートマネージドサービスのプライバシーポリシーとローカルストレージポリシーを確認できます。

商標について

- MEVIXは、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社の、日本およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows、Microsoft Edgeは、米国 Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、Intel Coreは、Intel Corporationまたはその子会社の商標です。
- Amazon Web Services、AWSは、米国その他の諸国における、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。
- PJLink 商標は、日本、米国その他の国や地域における登録または出願商標です。
- その他、この説明書に記載されている各種名称・会社名・商品名などは各社の商標または登録商標です。なお、本文中では®やTMマークは明記していません。

ご注意

- 本ソフトウェアおよびこの説明書の一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 本ソフトウェアおよびこの説明書を運用した結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本ソフトウェアの仕様、およびこの説明書に記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター

電話 フリー
ダイヤル



0120-872-601

※携帯電話からのご利用になれます。

営業時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）
9:00～17:30（12:00～13:00は受付のみ）

URL https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_support

※ 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差しあげるのにお時間をいただくことがあります。

※ お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

【当サポートセンターにおけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社

〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号